

様式（文部科学省ガイドライン準拠版）

令和3年度
自己評価報告書
評価対象期間：令和2年度
（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

令和3年9月1日

日本医学柔整鍼灸専門学校

目次

1	学校の理念、教育目標	1	基準4	学修成果	30
2	令和2年度の重点目標と達成計画	2	4-13	就職率	31
3	評価項目別取組状況	4	4-14	資格・免許の取得率	34
基準1	教育理念・目的・育成人材像	5	4-15	卒業生の社会的評価	36
1-1	理念・目的・育成人材像	6	基準5	学生支援	38
基準2	学校運営	8	5-16	就職等進路	39
2-2	運営方針	9	5-17	中途退学への対応	40
2-3	事業計画	10	5-18	学生相談	42
2-4	運営組織	11	5-19	学生生活	44
2-5	人事・給与制度	14	5-20	保護者との連携	46
2-6	意思決定システム	15	5-21	卒業生・社会人	47
2-7	情報システム	16	基準6	教育環境	49
基準3	教育活動	18	6-22	施設・設備等	51
3-8	目標の設定	19	6-23	学外実習、インターンシップ等	52
3-9	教育方法・評価等	20	6-24	防災・安全管理	54
3-10	成績評価・単位認定等	23	基準7	学生の募集と受入れ	56
3-11	資格・免許の取得の指導体制	25	7-25	学生募集活動	57
3-12	教員・教員組織	27	7-26	入学選考	59
			7-27	学納金	61
			基準8	財務	62
			8-28	財務基盤	63

8-29	予算・収支計画.....	65
8-30	監査.....	66
8-31	財務情報の公開.....	67
基準 9	法令等の順守	68
9-32	関係法令、設置基準等の順守.....	69
9-33	個人情報保護	70
9-34	学校評価.....	71
9-35	教育情報の公開.....	72
基準 10	社会貢献・地域貢献	73
10-36	社会貢献・地域貢献	74
10-37	ボランティア活動.....	75
4	令和元年度の重点目標と達成計画	76

※評語の意味

- 4 適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
- 3 ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取り組みが期待される。
- 2 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取り組む必要がある。
- 1 全く対応をしておらず不適切である。学校の方針から見直す必要がある。

1 学校の理念、教育目標

教育理念	教育目標
<ul style="list-style-type: none">・学校の教育理念は、「他人を敬い自ら律する心と確かな臨床力により人々から信頼される医療人を育成する」である。・学校の経営母体である学校法人学園の「敬心」には、「他人を敬い自らを律する」という意味が込められている。この「敬」は人々を敬愛する「敬意」「敬老」「尊敬」に通じ、また「心」は人間の精神作用を総合的にとらえた言葉であり、人間の「知識」や「感情」「意思」の総体でもある。さらに、「思慮」・他人への「思いやり」・自らの「志」に通じるものであり、医療分野の対人サービスを専門職とする人及び志す人の基本的な心構えである。・一方、現場では常にプロフェッショナルとしての臨床力が求められる。臨床力とは、十分な知識・技能に裏打ちされた実践的能力はもちろん、心構えや態度、コミュニケーション力、情報収集力、判断力そして自己研鑽を積み続ける姿勢までも含むものとする。・「敬心」の心と臨床現場で必要とされるスキルを持ち合わせることで、あらゆる人々から信頼される医療人の育成に、教職員一体となって取り組んでいきたい。	<ul style="list-style-type: none">・学校の教育目標は、「自ら考え行動する医療人の育成」である。・「自ら考え行動する医療人」とは、自ら問題を発見、課題を設定し、その解決のために方策を考え判断し実践することのできる人材である。こうした医療人の育成には、基礎知識、専門知識や技術等の医療専門教育に加え、態度や心構え、倫理教育、コミュニケーション教育、体験学習等のすべてを包含する教育が必要である。・この教育目標に向け、教員は「教える教育から、学生が自ら学ぶ学習支援へ」を心がけ、学生には「目的意識を持ち、自発的に学ぶこと」を促し、教育を通じて教職員・学生が共に学び合う姿勢と心を大切にしたいと考える。さらに、学生の志を育みモチベーションを高めることを支援し、かつ社会のニーズをいち早く捉える先駆的な試みにもチャレンジしていきたい。

最終更新日付	令和3年8月23日	記載責任者	吉田 智哉
--------	-----------	-------	-------

2 令和3年度の重点目標と達成計画

令和3年度重点目標	達成計画・取組方法
<p>(1) 中途退学率を5.0%以下とする。</p> <p>(2) 就職率100%を達成する。</p> <p>(3) 230名(入学定員)の入学者を確保する。</p>	<p>(1) 学校目標5.0%達成に向け、学校として以下を行う。</p> <p>①1年生に対して、教務職員による副担任の新設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務職員5名が柔整・鍼灸の昼夜1年生に副担任として参加、担任不在時きめ細やかな対応を可能にする。 <p>②学生情報の見える化、情報共有の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学から卒業まで管理できる学生管理台帳に学生情報を蓄積していく。 ・学科会議でクラス報告を徹底し、要支援学生を全体でフォローアップする。 <p>③中退予防に向けて、「兆し」の早期発見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年に引き続き、オンライン授業内の画面オフ学生の調査 ・非常勤講師との連携を強化し、情報共有および学生指導の協力も依頼 <p>④(柔整のみ)ホームルームの新設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週、授業外でホームルームの時間を設置 ・重要事項の告知や出欠WEBポータルの確認の時間としても活用する。 <p>(2) 就職率100%達成に向けて、以下を課題とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年の新年度オリエンテーションにキャリアスケジュールの説明を導入 →いつまでにどんな行動をすべきか学生に可視化。 ・ハイブリッド型支援の継続×高効果な「個別対応」の繰り返し →「動こうとしない学生」の活動を促す。 ・内定状況を本校舎掲示板に掲示→就職活動の動向の見える化。 就活市場が動いていることを学生に認識させる。 ・高年齢層も内定に繋がる効果の高い対面のキャリアイベントを定期開催 →第1回業界フェスタを5月に開催。コロナ対策を徹底しつつ、学生の興味の高い内容で参加を促す。 <p>(3) 学校目標230名達成に向けて、以下5点を取り組む。</p> <p>①高校生の獲得 目標77名(J57名・S20名)</p> <p>②AO歩留まり率 学校全体目標50%(学科毎でも目標設定)</p> <p>③独立開業支援の訴求</p>

<p>(4) 国家試験合格率(新卒)において、全国平均を上回る。</p>	<p>④J 学科競争優位性の明確化 ⑤リアル来校してもらうための動画コンテンツの充実</p> <p>(4) 国家試験合格率の全国平均以上を目標として、</p> <p>①「自ら学ぶ」ことを軸にした内容に方針転換 ②学生の成長・合格力を定点観測するために、実力試験の時期・回数・レベルを固定化することに着手。 経年の試験結果を蓄積し、時期に合わせた合格ラインを設定。 設定した合格ラインに届く学習支援の計画を立案していく。 ③独自開発したスマホアプリでの問題演習。 通学途中など隙間時間でできるアプリ。自学自習支援ツールであり、傾向分析・問題データベース化が可能 ④学年別に全学生向けと要学習支援学生向けにそれぞれ取組み内容を立案し実行する。 ⑤要学習支援学生向けには、学習定着率の高い学習方法を展開する。</p>
--------------------------------------	---

最終更新日付	令和3年8月23日	記載責任者	吉田 智哉
--------	-----------	-------	-------

3 評価項目別取組状況

基準 1 教育理念・目的・育人人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>・学校の理念である「他人を敬い自ら律する心と確かな臨床力により人々から信頼される医療人を育成する」を柱に、「自ら考え行動する医療人の育成」を教育目標として学校を運営している。</p> <p>・さらに学校のあるべき姿として平成 29 年度に「ビジョン 2022（他者オリエンテッドの心と自ら生き抜く力を持ったグローバルで活躍できる統合医療のパイオニアを育成します）」を策定。これらに基づいて「3つのポリシー（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）を制定した。</p> <p>・なお、ビジョン 2022 を実現するために、3つの課題を設定し、それぞれ具体的なアクションプランを立てて取り組んでいる。</p> <p>・また、令和元年度からは学科ごとのディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを制定して学校運営を行っている。</p> <p>・令和 2 年度は、教育のさらなる質向上を目指し、教学マネジメントを推進する構想が検討され、その推進組織としてカリキュラム編成委員会を設置した。令和 4 年度にカリキュラム編成の改訂を計画しているほか、教学全般にかかわる体制の整備に取り組んでいる。</p>	<p>・今年度設置したカリキュラム編成委員会に置いて、学校の理念にある「他人を敬い自ら律する心」を育む態度教育、「臨床力」を磨く科目設定やカリキュラム編成を具体的に検討し、令和 4 年度の改訂に反映していく。</p> <p>・態度教育においては、ディプロマポリシーに基づき、実際の授業の中でも育成するよう、あらかじめカリキュラム編成の重要な要素として具体的に検討していく。</p> <p>・また、臨床実習の充実を目的として、各学科の実習施設の整備、設備や機器の充実を図る。さらに、学外での臨床実習先として、整形外科、介護施設、接骨院、鍼灸院などのさらなる増設と実習内容の充実を図る。</p> <p>・さらに、現在課外活動として実施しているゼミについても、独立開業ゼミの新設など、質量ともにさらなる充実を図り、卒業後の活躍に繋げていきたい。</p>	<p>・左記の教育活動に加え、日本医専トレーナーズチーム（NITT）を学生・卒業生・教員で組織し、以下のプロスポーツやアマチュアスポーツの団体と連携。スポーツ現場での学びの機会を提供することにより、学生・卒業生がこの分野で活躍出来る土台を構築している。</p> <p>*プロバスケットチームBリーグ「鹿児島レブナイズ」、関東学生アメリカンフットボール連盟、JPF「立川ファルコンズ」、「専修大学キックボクシング部」、Jリーグ「レノファ山口」、ガールズ競輪、「東京高等学校ラグビー部」、「橘高等学校ソフトテニス部」、株式会社「熊原アスリートサポート」、ラグビートップイーストリーグ DVI「BIG BLUES」、国士舘大学ラグビー部、早稲田大学男子チア、鹿児島国体代表チーム</p> <p>・また、付属接骨院の中にスポーツコンデシュニングセンターの設置し、ケガ予防、パフォーマンスアップ等を目的としたコンテンツを確立した。</p> <p>・さらに海外との教育連携先である上海中医薬大学、セントラルフロリダ大学とは、コロナ禍でもオンラインによる授業の実施に取り組むほか、新たに天津中医薬大学・遼寧中医薬大学・四川成都第一骨科医院における臨床実習について、引き続き調査検討に取り組んでいく。</p>

最終更新日付	令和 3 年 8 月 20 日	記載責任者	奥田 久幸
--------	-----------------	-------	-------

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	<input type="checkbox"/> 理念に沿った目的・育成人材像になっているか <input type="checkbox"/> 理念等は文書化する等明確に定めているか <input type="checkbox"/> 理念等において専門分野の特性は明確になっているか <input type="checkbox"/> 理念等に応じた課程（学科）を設置しているか <input type="checkbox"/> 理念等を実現するための具体的な目標・計画・方法を定めているか <input type="checkbox"/> 理念等を学生・保護者、関連業界等に周知しているか <input type="checkbox"/> 理念等の浸透度を確認しているか <input type="checkbox"/> 理念等を社会等の要請に的確に対応させるため、適宜、見直しを行っているか	4	<p>・理念等は文章化し明確に定め、教職員や学生等に周知徹底に務めている。理念に応じた具体的な目標を掲げ立案・計画・実行を目指している。「ビジョン2022（2022年のあるべき姿）」実現のため、3つの活動に再編成し取組んでおり、具体的なアクションプランへの落とし込みを図っている。理念及び教育目標に基づき「集める学校から集まる学校づくり」を方針と定め、「学生に全力投球」をモットーに、教職員一体となって推進する。</p>	<p>・理念等は教職員間では周知徹底されているほか、学生、保護者、関係業界にも浸透しつつあるが、さらなる理解浸透のため、種々の会合等で、積極的に説明していく必要がある。</p>	<p>・学生オリエンテーション、学校説明会、保護者会、教育課程編成委員会、就職ガイダンス等を通じて、理解と周知を図る。</p>	
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	<input type="checkbox"/> 課程（学科）毎に関連業界等が求める知識・技術・技能・人間性等人材要件を明確にしているか <input type="checkbox"/> 教育課程、授業計画（シラバス）等の策定において関連業界等からの協力を得ているか <input type="checkbox"/> 専任・兼任（非常勤）にかかわらず教員採用において関連業界等からの協力を得ているか <input type="checkbox"/> 学内外にかかわらず、実習	4	<p>・年2回開催の教育課程編成委員会において、学外からの意見を基に教育活動に取り組んでいる。</p> <p>・柔道整復学科では、公益社団法人東京都柔道整復師会伊藤会長の特別講義も実施し、関連業界との関係を強めている。</p> <p>現在公益社団法人東京都柔道整復師会、50ヶ所の実習先が確保され、各接骨院での臨床実習を行なっている。ま</p>	<p>・教員の採用、特別講習開催にあたり、引き続き、関連業界との積極的な協力体制を継続していく。</p>	<p>・教員の採用にあたり、関連業界の協力体制を検討する。</p> <p>・多くの関連業界との連携に努める。</p>	

	の実施にあたって、関連業界等からの協力を得ているか □教材等の開発において、関連業界等からの協力を得ているか		た、整形外科(7院)、介護施設(6か所)での学外臨床実習も始まり協力を得ている。			
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	□理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか □特色ある職業実践教育に取り組んでいるか	4	・鍼灸学科は、美容鍼灸・レディース鍼灸・スポーツ鍼灸・高齢者鍼灸の4つの専門分野を学ぶカリキュラムを編成し、柔道整復学科においても「ケガゼミ」「ヘルスケアゼミ」「高齢者ゼミ」「スポーツゼミ」の4つの専門ゼミを開講するなど、卒業後の活躍を睨んだ教育活動を展開している。	・引き続き、特色ある教育活動の継続と進化を図っていく。	・社会のニーズに合わせた職業実践教育を具体的に検討していく。	
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	□中期的(3~5年程度)視点で、学校の将来構想を定めているか □学校の将来構想を教職員に周知しているか □学校の将来構想を学生・保護者・関連業界等に周知しているか	4	・中期及び単年度事業計画を策定している。 ・経営会議、学科会議、及び委員会で詳細に審議・討論され、教職員会議等で将来構想を周知している。	・教職員には、学校の将来構想について周知が図られているが、さらに学生、保護者、関連業界等への周知を図る。	・学校説明会、保護者会、学生オリエンテーション等で周知を図る。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<ul style="list-style-type: none"> ・理念・目的を文章化し明確に定めその周知に努力している。理念・目的に沿った運営方針の基、事業計画を策定し実行している。 ・育成人材には業界の協力のもと、業界ニーズに沿った対応に務めている。さらに将来の有るべき姿を構想し教職員一丸となって取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の調和と力を示し教職員間、学科間の垣根を越えた取り組みをしている。学科会議及び委員会での意見交換も活発で、常に目標を高く掲げ、「学生に全力投球」をモットーに、理念を追求している。

最終更新日付	令和3年8月20日	記載責任者	奥田 久幸
--------	-----------	-------	-------

基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・理念及び教育目標にもとに策定した「ビジョン 2022（2022 年のあるべき姿）」実現のため、新しいカリキュラム編成(令和 4 年度から実施予定)の検討を開始。新カリキュラムの実施にあたっては、カリキュラムマネジメントを導入し、教育の質向上をはかるために絶え間なく Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Act(改善)をまわしていく体制を構築していく。 ・中期及び単年度事業計画を策定し、これらの計画に基づいた学校経営目標を定量的・定性的に設定している。さらに目標達成のために具体的なアクションプランに落とし込み、PDCA サイクルを回している。アクションプランについては、各学科会議及び横断的に編成されている委員会（教務委員会、カリキュラム編成委員会、学生委員会、入試広報委員会、キャリア支援委員会、倫理委員会、事故対策委員会）等で詳細に審議・検討しており、必要に応じて、学校の意思決定機関である学校経営会議へ上申し、決定している。 ・さらに学校外の専門家や業界団体・企業からの意見を取り入れるべく、教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会を年 2 回開催し、学校運営に活かしている。 ・また、案件によっては時限的にプロジェクトを立ち上げ、迅速な学校運営を行うよう努めている。 ・決定事項に関しては、議事録を全教職員にメール送信しており、必要に応じて定期的に開催される学科会議や教職員会議で周知徹底している。 ・いずれの活動も、教職員間や学科間の垣根を超えた議論や取り組みが活発になされている。さらに、教職員一人一人の行動において、「Change & Challenge」を推奨しており、その取り組みや成果は、学園や学校で行う表彰制度によって公表され共有している。 ・人材育成強化と活性化を目的に導入した評価制度 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ビジョン 2022」については、新しいカリキュラム編成に関する検討のほか、3つのプロジェクトチーム（1. 確かな合格力の育成、2. 専門家との連携と新たな活躍フィールドの開拓、3. 学修支援体制の構築と環境整備）によって、それぞれ活動計画や目標を立てて具体的に推進していく。 ・学校経営目標については、学校経営会議において定期的に進捗状況を確認し、目標達成に向けタイムリーに打ち手を打つ等、PDCA サイクルの徹底を図る。 ・人事評価制度については、目標設定の適正化（目標内容はグレードに適合しているか、明確な目標設定がなされているか、目標項目のウエイトは適切か、組織目標と連動しているか、組織からの要望と連動しているか）をはかるため、組織長全員で全教職員の目標設定について相互に確認し、共有する機会を設けるなど、運用面の拡充を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 4 年度実施予定の新しいカリキュラムは、次のポイントを重点課題として検討する。 ① ディプロマポリシーを反映したものであり、特に自己学習の涵養、態度教育を意識したもの ② 現在、学校が直面する課題を解決するもの ③ 本校ならではの魅力が盛り込まれたもの ・提案や取り組みは、毎月の教職員会議で表彰する月間 MVP・年間 MVP 制度（特に Change & Challenge している取り組み、創意工夫しているなど頑張っている取り組みに対して毎月紹介する制度）をはじめ、「教職員表彰制度（敬心アワード）」(学園主幹)とともに教職員の資質と意欲向上につなげている。 ・学校運営における様々な改善提案は、テーマによってそれぞれの委員会で審議され、毎週開催している学校経営会議にて迅速に判断している。 ・新型コロナウイルス感染症に対しては、感染症拡大防止と教育効果の両面から ZOOM を利用したオンライン授業を導入し、感染状況に応じて授業形態を柔軟に対応できる態勢を整えた。また、校内の感染症対策に関しては常に最新の情報を取り入れながら迅速な対応を行うとともに、感染者発生時の対応フローを作成するなど、リスクマネジメントを整備した。

は報酬にも反映され、さらに適正な運用がなされるよう、評価スキルのアップと教職員の目標設定スキルの向上が今後の課題である。		
--	--	--

最終更新日付	令和3年8月10日	記載責任者	岸本 光正
--------	-----------	-------	-------

2-2 運営方針

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-2-1 理念等に沿った運営方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 運営方針を文書化する等明確に定めているか <input type="checkbox"/> 運営方針は理念等、目標、事業計画を踏まえ定めているか <input type="checkbox"/> 運営方針を教職員等に周知しているか <input type="checkbox"/> 運営方針の組織内の浸透度を確認しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・理念、教育目標に基づき、アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを定めるとともにビジョン(2022年のあるべき姿)を定め、その実現に向けて取り組んでいる。 ・また、令和4年度から実施する新しいカリキュラム編成に際し、カリキュラムマネジメントを導入して、PDCAサイクルを回して不断の改善をはかる体制を構築していく。 ・「ビジョン2022」の実現に向けては、3つのプロジェクトチーム(1. 確かな合格力の育成、2. 専門家との連携と新たな活躍フィールドの開拓、3. 学修支援体制の構築と環境整備)で活動している。 ・これらは、定例会の会議体や教職員表彰制度によってその浸透を図っており、年度末に実施する「職場アンケート」を通じて確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを実際の教育活動にどのように実現していくかが、重要な課題である。 ・カリキュラムマネジメントを着実に実践するための運営体制の構築が必要である。 ・「ビジョン2022」実現に向け、学校運営に着実に活かしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アドミッションポリシーについては、募集要項に明記するとともに、AO面談など入試における面談の評価項目(評価シート)に反映していく。 ・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーは、令和4年度から実施予定の新しいカリキュラム編成に十分反映したものにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「本校のビジョンと3つの方針」 ・AO面談評価シート

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
-------	--------------------

<ul style="list-style-type: none"> ・理念、教育目標および DP・CP・AP に基づき策定した「ビジョン 2022」実現するため 3 つのプロジェクト活動によって具体的に進められている。 ・さらに令和 4 年度から実施する新しいカリキュラム編成に際し、カリキュラムマネジメントを導入して教育の質向上を構築する。 ・理念や方針等の浸透策として、学科会議や教職員会議などの定例会議での共有を行っている。 ・また、学園のクレドに基づき、特に「Change & Challenge」の行動姿勢を推奨している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学生に全力投球」をモットーに、教職員間、学科間の垣根を超えた取り組みを重要視した運営を行っている。 ・昨年度設けた月間 MVP 制度によって、特に Change & Challenge している取り組みや創意工夫している取り組みに対して表彰し、共有している。
---	--

最終更新日付	令和 3 年 8 月 10 日	記載責任者	岸本 光正
--------	-----------------	-------	-------

2-3 事業計画

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	<input type="checkbox"/> 中期計画（3～5 年程度）を定めているか <input type="checkbox"/> 単年度の事業計画を定めているか <input type="checkbox"/> 事業計画に予算、事業目標等を明示しているか <input type="checkbox"/> 事業計画の執行体制、業務分担等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期・内容を明確にしているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・前度末に中期事業計画を策定し、これに基づき単年度事業計画、予算、学校経営目標を策定している。 ・本年度は、「ビジョン 2022」実現に向け、中期事業計画や単年度計画など主要計画と連動した取り組みを行った。 ・単年度計画は、令和 2 年度学校経営方針書として、重点課題、課題解決に向けた取り組み方針および業績重要指標の計画を明記し学園内、学校内で公開し共有している。 ・事業計画の執行は、委員会や担当部署を明確にして取り組んでおり、学校経営会議や各委員会で進捗状況を確認している。案件によっては、時限的なプロジェクト（ワーキング）チームを発足し活動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画の執行は、項目によって PDCA サイクルにおける Check & Action を適正なスパンで行い、執行の質向上を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営目標項目をはじめとした重要項目の進捗管理について、さらなる質向上を図るため、管理方法、情報共有の在り方、予測精度などの見直しを適宜行っていきたい。 	令和 2 年度学校経営方針書

			<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営目標項目の学生募集、中退率、国家試験合格率就職率については、進捗状況と最終予測状況を定期的に学校経営会議で確認し、必要に応じて改善策を審議、決定している。 			
--	--	--	--	--	--	--

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・理念に基づき、中期事業計画を策定。さらに単年度事業計画・単年度予算及び学校経営目標を設定し、学園経営会議の承認を得て執行している。 ・「ビジョン 2022」実現のため、中期事業計画や単年度計画を策定するとともに学校経営方針書を作成、学校内に周知し取り組んでいる。 ・事業計画の執行は、委員会や担当部署を明確にし、進捗状況を確認しながら進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年のあるべき姿「ビジョン 2022～他者オリエンテッドの心と自ら生き抜く力を持ったグローバルで活躍できる統合医療のパイオニアを育成します～」の実現に向けて取り組んでいる。 ・一方で、組織的に PDCA を回していくことにより、自立自走する組織を目指す目的で、学校経営業績重要指標を導入しており、定量的・定性的な目標指標の設定及び進捗管理を行っている。

最終更新日付	令和3年8月10日	記載責任者	岸本 光正
--------	-----------	-------	-------

2-4 運営組織

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	<input type="checkbox"/> 理事会、評議員会は、寄附行為に基づき適切に開催しているか <input type="checkbox"/> 理事会等は必要な審議を行い、適切に議事録を作成しているか <input type="checkbox"/> 寄附行為は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会、評議員会は、寄附行為に基づき、予算理事会、決算理事会の他、必要に応じて適切に開催している。 ・理事会は、必要な審議を行い、適切に議事録を作成している。 ・寄附行為は、必要に応じて適切な手続きを経て改正している。 			
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校運営に必要な事務及び教学組織を整備しているか <input type="checkbox"/> 現状の組織を体系化した組織規程、組織図等を整備し	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営において、学校経営会議を意思決定機関とし、以下に学科会議及び教務委員会、カリキュラム編成委員会、学生委員会、入試広報委 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営会議、委員会等は、一定のルールをもとに運営されているが、業務分掌、会議及び委員会に関 	<ul style="list-style-type: none"> ・諸規程の見直しについて学園で進める規程等検討と連動して推進していく。 	

	<p>ているか</p> <p><input type="checkbox"/>各部署の役割分担、組織目標等を規程等で明確にしているか</p> <p><input type="checkbox"/>会議、委員会等の決定権限、委員構成等を規程等で明確にしているか</p> <p><input type="checkbox"/>会議、委員会等の議事録（記録）は、開催毎に作成しているか</p> <p><input type="checkbox"/>組織運営のための規則・規程等を整備しているか</p> <p><input type="checkbox"/>規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか</p> <p><input type="checkbox"/>学校の組織運営に携わる事務職員の意欲及び資質の向上への取り組みを行っているか</p>	<p>員会、キャリア支援委員会、倫理委員会、事故対策委員会等を配置、必要な審議を行っている。それぞれの会議で検討され、決定した内容は、開催毎に議事録を作成し、全教職員に対するメール送信を行うほか、重要事項は各学科会議や毎月の教職員会議で周知徹底を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また学校運営のオーディット機能として、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会をそれぞれ年2回開催し、学校運営の質向上に努めている。 ・組織図、組織目標等は明確にしている一方、業務分掌、会議、委員会等、規程の一部が現状に則した内容に改定されていない面がある。 ・学校の組織運営には、各委員会の活動を通して、積極的に関与するよう働きかけており、それらの取り組みが、月間 MVP 制度により表彰され共有されている。 ・また、学園主催の「フィロソフィーワークショップ」や教育力向上の研修会に参加し、意欲と資質向上に努めている。 ・さらに、全国柔道整復学校協会・東洋療法学校協会主催の教員研修会に参加しており、意欲と資質の向上に取り組んでいる。 	<p>する規程を現状に則したものに改定する必要がある。</p>		
--	---	---	---------------------------------	--	--

			・新規入職者に対しては、導入プログラムによる研修を実施している。			
--	--	--	----------------------------------	--	--	--

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）		
<ul style="list-style-type: none"> ・理事会と評議員会は、設置法人である学園本部が事務局となり、適切に行っている。 ・学校運営に関しては、学校経営会議を意思決定機関とし、学科会議、教務委員会、カリキュラム編成委員会、学生委員会、入試広報委員会、キャリア支援委員会、倫理委員会、事故対策委員会等を配置している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織運営においては、教職員間、学科間の垣根を超えた議論や活動を推奨しており、活発に行う体制を整えている。 		
最終更新日付	令和3年8月10日	記載責任者	岸本 光正

2-5 人事・給与制度

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	<input type="checkbox"/> 採用基準・採用手続きについて規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 適切な採用広報を行い、必要な人材を確保しているか <input type="checkbox"/> 給与支給等に関する基準・規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 昇任・昇給の基準を規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 人事考課制度を規程等で明確化し、適切に運用しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> 採用基準及び採用フローに関しては、一定のルールに基づき運用している。 教員の採用にあたっては、書類審査と面接に加え模擬授業による評価を実施している。 職員の採用に関しては、書類審査と面接を実施している。 昇任・昇給等は、平成27年度から導入した評価制度（等級制度含む）に基づき、人材の育成と組織活性化を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在の評価制度・報酬制度を反映した就業規則を策定する必要がある。 また、組織的に教育の質向上と連動した評価制度に向け、見直しに取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい就業規則については、設置法人が主体となって策定する計画である。 評価制度の見直しは、運用面を十分に考慮しながら進めていく。 	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度より学園で等級制度を含めた評価制度が導入され、教職員一人ひとりの資質能力や主体性の向上と、学校目標と教職員一人ひとりのグレードに応じた個人(業績)目標の連動を明確にし、組織の活性化に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価・報酬制度の運用にあたっては、学校目標と個人目標の連動が極めて重要な要素であり、組織活性化のカギを握っている。 なお、個人目標の設定および評価に関しては、それぞれの組織長が参加する調整会議を開き、公平・公正を担保する体制で臨んでいる。 今後は、さらに教育の質向上と連動した制度に見直しを進めていく。

最終更新日付	令和3年8月10日	記載責任者	岸本光正
--------	-----------	-------	------

2-6 意思決定システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	<input type="checkbox"/> 教務・財務等の業務処理において、意思決定システムを整備しているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムにおいて、意思決定の権限等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムは、規則・規程等で明確にしているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・教務業務は、学則に則り学科会議や教務委員会で審議され、必要に応じて学校経営会議で承認されている。 ・財務事案をはじめ重要事案は、稟議ルールに基づき決定しており、学園本部によるチェック機能が働いている。 ・その他学校運営に関する事案は、委員会で検討され、学校経営会議に上申され決定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの規程において一部現状に則した改定の必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学園で設置した規程等検討委員会で見直しを進めていく。 	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営及び教務業務に関する事案は、学科会議・教務委員会・カリキュラム編成委員会・学生委員会・入試広報委員会・キャリア支援委員会、倫理委員会、事故対策委員会等で検討し、必要に応じて学校経営会議に上申され決定している。また、重要事案については稟議ルールに基づき決定している。今後、これらの運用に関して文書等に明文化していく必要がある。 ・財務等の業務処理においては、あらかじめ定められたルールに則り遂行されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・財務事案をはじめ重要事案は、稟議ルールに基づき決定しており、学園本部（学校支援本部）によるチェック機能が働いている。

最終更新日付	令和3年8月10日	記載責任者	岸本光正
--------	-----------	-------	------

2-7 情報システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-7-1 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか	<input type="checkbox"/> 学生に関する情報管理システム、業務処理に関するシステムを構築しているか <input type="checkbox"/> 情報システムを活用し、タイムリーな情報提供、意思決定が行われているか <input type="checkbox"/> 学生指導において、適切に学生情報管理システムを活用しているか <input type="checkbox"/> データの更新等を適切に行い、最新の情報を蓄積しているか <input type="checkbox"/> システムのメンテナンス及びセキュリティー管理を適切に行っているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・「ZOOM」を活用したオンライン授業を5月より開始した。その準備として、学生、教職員用マニュアルの作成や、非常勤講師も含め教員間でテクニックを紹介しあい、授業展開の研修会を行った。 ・Google フォームを使用したオンライン試験実施をきっかけに、翌令和3年度からのGoogleClassroom運用が決定し、本校の教育活動、授業展開に沿ったGoogleClassroomの運用方法の検討をしている。 ・学生情報管理システム『infoclipper』を活用し、出欠席状況の他、成績、単位取得状況が確認できるよう準備を進めた。 ・学生情報を学年ごと一覧で確認できる『学生情報管理台帳』の運用が決定した。学生の傾向分析に活用したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、教育活動においてICTをどのように活用していくのか検討する。 ・また、それに伴い教職員のICTに対する知識、スキルの向上を図る取り組みが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業へのICTの取り入れ方、実際の臨床における活用方法および必要性について、専門家の意見を取り入れながら、まずは中長期の計画を作成し取り組んでいく。 	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
緊急事態宣言をきっかけに本校においてもDX化の議論が始まり、ICTを活用した取り組みが前倒しで進められ、教職員の意識も変わった。今後は単にICT利用という視点だけでなく、授業形態や学生管理そのもののあり方から考えていく必要がある。	

最終更新日付	令和3年8月18日	記載責任者	伊藤 真紀
--------	-----------	-------	-------

基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>・本校は、他人を敬い自ら律する心と確かな臨床力により人々から信頼される医療人を育成する事を理念に教育活動を行っている。</p> <p>・令和 2 年度はコロナ禍の影響を受け、早期からオンライン授業を積極的に取り組んだ。</p> <p>・講義科目は Web 会議アプリケーション「zoom」を使用し、双方向性のリアルタイム授業を実施。同内容の録画を 2 週間の期限付きで再視聴可能にするなど、オンラインでの学びの充実や欠席者対応を行った。</p> <p>・受講した学生からの反応は、録画で復習ができてとても良いというものから、自宅では集中できないといったものまで様々であったが、年度途中に行ったアンケートでは 8 割の学生の満足を得られた。今後の課題としては視聴環境（通信環境、生活環境）が整わない学生への対応や、資料配布方法の見直し、単調になりがちな授業展開ではない、メリハリのある授業方法の確立などが挙げられる。</p> <p>・一部の実技科目においては冒頭説明+デモの 15～30 分の動画を事前に別収録し、動画を予習活用することで反転授業を実施した。これはデモ時に密になる事を防ぐ目的であったが、説明・デモを自宅で事前視聴する事で登校時の練習に多くの時間がさけることが分かった。ただし、一定の角度のみでの撮影であったため、わかり難い部分も見受けられた。</p>	<p>・コロナ禍収束後もオンライン授業の需要は高いと思われる。視聴環境が整わない学生への機器の貸し出しや教室内の freeWi-Fi 設置、オンライン授業のルールを明確に作成し浸透させる事などに組みたい。</p> <p>・オンライン授業も単調な授業展開では集中力が続かず、工夫のある授業が高い評価が得られている。高評価の授業動画を共有し、学校全体の授業力向上をはかりたい。</p> <p>・撮影機器の充実や撮影方法の工夫を検討。高評価の事例を学内・学外問わずに収集し向上に努めたい。</p> <p>・一方、今年新たにカリキュラム編成委員会を設置。カリキュラムマネジメントの一環として、平成 30 年度に編成したカリキュラムの振り返りを様々な観点から行い、令和 3 年度の改訂に盛り込んでいく。</p>	<p>・コロナ禍は本校の特徴でもある多様な課外活動にも大きく影響した。海外研修、解剖見学実習は中止、臨床実習も大きく制限を受けた。海外研修は渡航こそ中止になったが、中国研修は提携先の上海中医薬大学とのオンライン講義を実施した。またセントラルフロリダ大学ともオンラインによる授業を模索しており、現状でできる最善を尽くした。今後も両学科共に他校にはない独自の教育活動を行っていききたい。</p>

最終更新日付	令和 3 年 8 月 25 日	記載責任者	中村 幹佑
--------	-----------------	-------	-------

3-8 目標の設定

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成方針、実施方針を文書化する等明確に定めているか <input type="checkbox"/> 職業教育に関する方針を定めているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・本学園の理念である「敬心クレド」を教室に掲示し、常に学生及び教職員の目に触れるようしている。 ・新年度開始時に配布する学生便覧及び全体講師会資料等にて方針を明示している。 ・教育課程編成委員会において、委員に指摘された様々な意見を集約し、教育到達レベルに反映している。 	教育課程の編成においては AP・CP・DP を定め、常にカリキュラムと照らし合わせている。なお、職業教育に関する方針は DP に盛り込まれており、今後授業科目との連動が課題。	<ul style="list-style-type: none"> ・DP をいかに授業に授業に反映していくか、具体的な施策に取り組んでいく。 	
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	<input type="checkbox"/> 学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか <input type="checkbox"/> 教育到達レベルは、理念等に適合しているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか	3	<ul style="list-style-type: none"> ・進級規定では定期試験における全教科の 60%以上の到達度を目安に判断をしている。また、実力試験の実施により、免許取得に対する到達度を図り、フィードバックを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の教育到達レベルと国家試験の合格率に差異があるため、取得指導・支援体制の整備が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策委員会内で引き続きフィードバックを行っていく。 	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度ディプロマポリシー（DP）、カリキュラムポリシー（CP）、アドミッションポリシー（AP）を再構築した。これに合わせてカリキュラムの見直しを図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標を到達できるよう、毎週学科毎に会議を開き、問題点の明確化や早期対応を図っている。また、隔週で教務委員会を開催し、各学科の取り組みを共有している。

最終更新日付	令和3年8月17日	記載責任者	中村 幹佑
--------	-----------	-------	-------

3-9 教育方法・評価等

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 議事録を作成する等教育課程の編成過程を明確にしているか <input type="checkbox"/> 授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の開設において、必修科目・選択科目を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 修了に係る授業時数、単位数を明示しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫する等学習指導は充実しているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか <input type="checkbox"/> 単位制の学科において、履修科目の登録について適切	3	<ul style="list-style-type: none"> ・授業科目の開設においては、専門科目、一般科目及び授業時間数、単位数等の履修内容をシラバスにて明示している。 ・職業実践教育の視点から実技科目に重きを置き、授業担当教員は実務経験が豊富な柔道整復師、鍼灸師が担当している。 ・実技科目と講義科目の時間配分には十分配慮し、学生の学習意欲を引き出せるカリキュラムとしている。 ・「カリキュラム編成委員会」を設置。DP・CPに基づき学校の教育課程の見直しを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの表記を統一する目的でシラバスのチェック・訂正を行っている。書式は概ね統一できたが、カリキュラム全体の進行との整合性に差異があるため見直しに行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス作成に関するFDを行う。 	

	<p>な指導を行っているか</p> <p><input type="checkbox"/> 授業科目について授業計画(シラバス・コマシラバス)を作成しているか</p> <p><input type="checkbox"/> 教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか</p>				
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか	<p><input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか</p> <p><input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか</p> <p><input type="checkbox"/> 職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか</p>	3	<p>・職業実践教育の充実を図るため、公益社団法人東京都柔道整復師会会長、接骨院開設者、鍼灸院開設者等に参加頂く教育課程編成委員会を年2回実施している。</p>	<p>・職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を客観的に行う仕組みづくりを検討したい。</p>	<p>・卒業生に対しては、卒業後1～2年後に職場環境調査の名のもとに「職業実践教育の効果」「キャリア教育の効果」について、併せて調査を実施すべくキャリア支援センター等で検討を進めていく。</p>
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	<p><input type="checkbox"/> キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか</p> <p><input type="checkbox"/> キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか</p> <p><input type="checkbox"/> キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか</p>	3	<p>・校内に設置しているキャリア支援センターが主管となつて、1年次のキャリアガイダンスから3年次の業界フェスタ等、学生のニーズに合わせて様々な講座を開設している。</p> <p>・今年度はコロナ禍によりオンラインでの就職相談も積極的に行った。</p>	<p>・キャリア教育の効果について、学生の意見聴取を実施しているが、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っていく必要がある。</p>	<p>・卒業生に対しては、卒業後1～2年後に職場環境調査の名のもとに「職業実践教育の効果」「キャリア教育の効果」について、併せて調査を実施すべくキャリア支援センター等で検討を進めていく。</p>
3-9-4 授業評価を実施しているか	<p><input type="checkbox"/> 授業評価を実施する体制を整備しているか</p> <p><input type="checkbox"/> 学生に対するアンケート等の実施等、授業評価を行っているか</p> <p><input type="checkbox"/> 授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか</p>	4	<p>・半期毎、授業終了時に全科目を対象に学生に授業アンケートを実施し、その結果をもとに教員の振り返りを実施している。アンケート結果によっては、科目担当教員に授業内容の改善等を依頼する。さらに、学校全体として</p>	<p>・アンケート結果の良い授業を共有し、全体の質を向上させていく必要がある。</p> <p>・授業評価の実施において、関連業界等との協力体制の構築をはかされていない。</p>	<p>・第三者が授業の聴講に入り、評価・共有していく事を検討中である。</p> <p>・授業評価の目的を改めて学生、教員に周知する。</p>

	□教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか		取り組むべき課題に関しては、教職員会議や非常勤講師も含む全体講師会で共有改善を図っている。 今まで紙媒体で実施をしていた「授業アンケート」に関して、グーグルフォームを用いたオンラインでの運用を開始した。	回答率の悪い学年もあるため、改善を目指す。		
--	------------------------------------	--	--	-----------------------	--	--

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成は、現在の業界情勢を鑑み、社会に即した形式で行うべきであると考え。 ・授業評価は、学生の好悪感情に惑わされることのないよう、慎重に取り扱うことが求められるため、繰り返し改善を行って行くことが必要であると考え。必要に応じて教員からのヒアリングや、第三者の授業聴講も視野に入れている。また、評価項目の見直しも検討する。 ・学生に対するアンケートは回答率も重要な要素であるため向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍におけるオンライン授業の実施により教育の在り方そのものを考えるきっかけとなった。学生・学校・第三者の意見などを取り入れつつ新しい授業スタイルやカリキュラムを模索していきたい。 ・今まで紙媒体で実施をしていた「授業アンケート」に関して、グーグルフォームを用いたオンラインでの運用を開始した。今後は、それをもとに分析をし、より質の高い授業展開を目指していきたい。

最終更新日付	令和3年8月17日	記載責任者	中村 幹佑
--------	-----------	-------	-------

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 成績評価の基準について、学則等に規定する等明確にし、かつ、学生等に明示しているか <input type="checkbox"/> 成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開く等客観性・統一性の確保に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は、養成施設の指定規則に沿って、学則及び学内規定で明確に定めている。学生に対しては、学生便覧及びシラバスに明示している。 ・「卒業判定会議」・「進級判定会議」で卒業・進級判定を行っている。 ・GPA は算出しているが学生への公開はできていない。 ・既修得単位の認定については学則及び養成施設の指定規則に準拠し判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・GPA の算出を行い、国家試験対策を行うための指標等として活用はできつつあり、今後は学生にも公開していきたい。 ・既修得単位の認定手続きに時間を要することから、運用の見直しが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績の公平性・客観性を担保するため、学生に対し個々の GPA と全体の GPA 分布を公開する。その際、公開の目的と目標とすべきポイントを明示して公開する。 ・期修得単位の認定においては、申請様式や審査のフローを見直すことで、審査に要す時間を縮減する。 具体的には、申請様式を審査に必要となる情報を網羅するようなものに見直し、データのクラウド共有により、審査を行う担当者が集まらなくとも審査業務を進行できるようにする。 	
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	<input type="checkbox"/> 在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ活動を積極的に行うことにより学会参加をしやすい環境整備を行っているが、業績や活動実績を把握することはできていない。 ・学術集会等への参加を推奨し、発表をする学生に対しては活動経費の援助を行って 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の活動成果・実績を正確に把握することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の成績だけでなく学習成果・活動歴をポートフォリオ化して一元管理するため、学籍管理システムの学生カルテを活用する。 	

			いる。			
--	--	--	-----	--	--	--

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>・成績評価基準・既修得単位の認定基準は明確に定められ、公開されている。成績の公平性・客観性のために GPA を活用していくことが求められる。また、既修得単位の認定に係る手順や様式を見直すことで、審査に要す時間を縮減することが課題となっている。</p> <p>また、成績だけでなく学習成果や活動歴の一元管理も課題となっている。</p>	<p>・4期制を敷き、短いタームでのステップバイステップの学びを繰り返すカリキュラムが特徴である。</p>

最終更新日付	令和3年8月20日	記載責任者	兼子 啓太郎
--------	-----------	-------	--------

3-11 資格・免許の取得の指導体制

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置付けているか	<input type="checkbox"/> 取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者の職業理解を深めるため、入学前に附属治療院での施術体験を行っている。 ・年度当初に配布する学生便覧に取得資格の意義や教育課程上の位置付けは、明確に記載している。 ・オリエンテーションや授業の際などで国家試験に関連する科目の説明は行っているが、カリキュラムの全体像や科目同士・学年のつながりなどの詳細な理解には至っていない面もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムの全体像や詳細を学生に伝え、共通理解をして3年間進んでいくこと。 国家試験までの学びのプロセスを学生・教職員が共通理解し、科目同士の接続や国家試験と繋がりを意識して、資格取得後の将来に繋がる3年間としていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の初め、期の初めなどに下記の説明機会を設ける。 (1) カリキュラムの全体像 (2) その学年・期で学ぶ内容や科目同士の繋がり (3) 次の学年・期で学ぶ内容との接続 (4) 国家試験との関連 また、日々の授業の中でも下記の事柄について触れていく。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 他の科目の進度に合わせた関連性 (2) 次の学年・期で学ぶ科目との繋がり 学習内容が国家試験でどのように出題されるか	
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	<input type="checkbox"/> 資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 不合格者及び卒業後の指導体制を整備しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復学科昼間部では、グループ学習で学生同士が学び、教え合う形式の補習を中心に実施したことが奏功し、35名中32名の国試合格(91.4%)を達成。 ・鍼灸学科では、コロナ禍に伴い、国試対策の方式をオン 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生自ら、および学生同士で学び合う仕組み・仕掛けの構築と実践が課題である。 ・在宅での学習進捗や習熟度の可視化し、学生と教員相互 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年4月よりLMSを導入し、運用を開始する計画。学生は隙間時間で問題演習などの自己学習に取り組み、個々の学生の取り組みを可視化する。 	

		<p>ライン中心に変更。補習はオンライン・オンデマンドで実施し、練習問題や実力試験もオンラインテストにて実施。教材はクラウドへのアップロードを行い、在宅での学習支援を行っている。</p> <p>在宅学習中心になったことで、主体的に学べる学生とそうでない学生とで成績が二極化。成績上位者は例年以上に得点が向上するも、教材活用や支援を主体的に受けない学生の成績が悪化した。</p> <p>・既卒不合格者に対する対応として、補習授業への参加、実力試験の実施、図書室の利用許可等、在校生と同等のサービスを提供している。</p>	<p>が客観的に進捗状況を把握できるよう取り組みたい。</p> <p>・隙間時間で学生が自己学習できるような補助教材が必要である。</p>	<p>・学生が「自ら学ぶ」ことを意図した新カリキュラムを設計。令和4年度より改訂する予定。合わせて、学習方法や学習習慣を身に付ける授業や補習の見直しを行い、実践していく。</p> <p>同時に、意欲・能力を引き出す手法を教職員が身に付けるよう、FD・SDを実施していく予定である。</p>	
--	--	---	---	--	--

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>・国家資格取得を目指すサポート体制は、国家試験対策委員会を中心に整備しつつある。コロナ禍にあって、学生が主体的に学ぶ仕掛けやツール、学習の進捗管理に課題があることが、明確になった。また、令和3年4月よりLMSを導入することを決定しその準備をすすめた。さらに令和4年度より主体的な学びを意図した新カリキュラムに改訂する予定である。</p>	<p>・令和4年度のカリキュラム改定に向け、現行カリキュラムの課題抽出など様々準備を進めている。中でも、国家試験の出題基準や症例別の出題数などを検証し、科目配置や授業設計の際の参考情報としてまとめており、今後科目間や学年間の接続を意識したカリキュラム編成を行っていく予定。</p>

最終更新日付	令和3年8月20日	記載責任者	兼子 啓太郎
--------	-----------	-------	--------

3-12 教員・教員組織

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	<input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか <input type="checkbox"/> 教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか <input type="checkbox"/> 教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか <input type="checkbox"/> 教員の採用計画・配置計画を定めているか <input type="checkbox"/> 専任・兼任（非常勤）、年齢構成、男女比等教員構成を明示しているか <input type="checkbox"/> 教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 教員一人あたりの授業時数、学生数等を把握しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は厚生労働大臣指定養成施設であり、本校では指定規則で定められた教員要件を順守した採用を行っている。 ・専門科目担当教員を採用する際は、技術・技能レベルが一般的な業界水準以上であるかを過去の臨床歴やトレーナー実績等の経験歴を重要視し採用している。 ・非常勤講師の採用チャンネルは教員間のネットワークが中心である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員採用にあたっては、指定規則で定められている教員要件以外に、「授業力」や「指導力」を重視する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・採用にあたっては、書類・面接審査のみではなく模擬授業を実施している。 	
3-12-2 教員の資質向上への取り組みを行っているか	<input type="checkbox"/> 教員の専門性、教授力を把握・評価しているか <input type="checkbox"/> 教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による教員の研修・研究に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 教員の研究活動・自己啓発	4	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、学校協会主催の教員研修会には専任教員の参加を促し、学会参加費や宿泊費等の援助を行っている。 ・各教員のキャリア支援や研究活動を支援ための予算を確保している。 ・授業アンケートを実施し学生からの評価を教員にフィ 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々では資質向上を行っているが、学校全体での資質向上を図りたい。 ・授業アンケートを個々の教員のみならず、組織的に振り返る体制を構築する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の現状に則したFD(教員教育)を実施する。 ・授業アンケートについては質問項目や集計後の具体的な活用方法を検討し改善する。 ・教員同士が好事例・ 	

	への支援等教員のキャリア開発を支援しているか		ードバックしている。		失敗談を共有する機会を設けたい。 ・教員相互や複数の目線・視点での授業見学を実施する。その際、共通の基準となるような専用の評価表を作成したい。
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか <input type="checkbox"/> 授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか <input type="checkbox"/> 専任・兼任(非常勤)教員間の連携・協力体制を構築しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> 委員会組織において、学科を超えた組織運営を行っており、学校全体としてのコンセンサスを取っている。 昼間部と夜間部の教員一同が会し、学科会議及び教職員会議を定期的に開催し、ガバナンス体制を整備している。業務の文章は学科ごと学科長を中心に毎年度見直し、周知の上、運用している。 教員同士での業務上の連携・協力体制は構築できているが、授業や国家試験対策における科目間連携や非常勤講師との連携意識は薄い。 毎年苦手意識を持つ学生が多い「解剖学」「生理学」担当の非常勤講師と現状の課題や対策について話し合いの場を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> 非常勤講師も含めた科目間の連携をさらに深める必要がある。 特に、国家試験における重点科目(難易度の高い基礎医学の科目等)における連携を強化したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 専任・非常勤教員が一同に会する全体講師会のコンテンツおよび日常の連絡体制について教務委員会等で検討していく。 定期試験の結果だけでなく、全体の成績やGPA分布、実力試験の結果を非常勤講師にも共有することで全体像の理解につなげる。 科目間連携を意図した新しいカリキュラムを令和3年度より改訂・運用開始の予定。

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
授業アンケートやオンライン授業にて授業内容の可視化・共有・評価を進めている。科目間の連携を強化することで学校全体の授業力向上に取り組んでいく。非常勤講師とも連絡を密にし、担当科目だけではなく学年全体の学生の状態を共有していくことが求められる。	・学園横断の「授業力向上プロジェクト(各校の教員代表者が出席)」において、『授業技術の習得目標6段階』の作成を計画するなど、教員の授業力に関する育成プログラムの基盤づくりを検討している。

最終更新日付	令和3年8月20日	記載責任者	兼子 啓太郎
--------	-----------	-------	--------

基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>【就職率】 （総括）キャリア支援委員会の目標として、就職活動は2年生の10月から開始し、3年生の9月調査で70%の内定率を獲得することを目指しているが、本年度は80%を達成した。また最終就職率は94.9%（昨年対104.7%）となり昨年を上回る結果となった。</p> <p>（課題）①就労継続情報は本人から聴取することは難しく、施術所側にも協力を得て調査しているため、人事担当者のいない院へは、多大なる負担をかけている。②柔道整復師は開業するにあたり、一定の実務経験が必要となったため、開業支援に協力的な院との連携を強めていくことが求められている。</p> <p>【資格・免許の取得率】 （総括）両学科とも昼間部と夜間部の間において、「合格率目標に対する、最終結果達成率」に差がでてしまった。（差分は柔道整復学科 32.5 ポイント、鍼灸学科・はり師 16.8 ポイント、きゅう師 12.0 ポイント）昨年度は、全ての学科で90%以上の達成率を確保していたのに対し、本年度の結果は部署間の格差が顕著に見られた。この結果に対する正確な分析は難しいところであるが、次年度に向けては今回良い結果を残した部署のやり方を踏襲し、実践していく。</p> <p>（課題）①学習面に不安を抱く学生に対し、入学直後から学習支援を行う体制を構築することができた。今後は、自ら主体的に学ぶ意欲をいかに育てていくかが課題である。②多忙な社会人学生に対する学習支援体制を整備する。③学校が提供する学習支援に対し、参加意欲の低い学生が一定する存在する。そのような学生に対する対策に引き続き取り組んでいく。④連続して国家試験に不合格となった卒業生への学習面及び、精神面でのサポートが課題である。</p> <p>【卒業生の社会的評価】</p>	<p>【就職率】 ①人事担当者のいない小規模な院に対し、臨床実習施設登録を進めることによって、更なる連携強化を図ることが、一つの方法と考えられる。その実現には、臨床実習担当教員とキャリア担当教員とで連携した検討・アプローチが必要である。 ②卒業生の就職先との連携強化、また業界フェスタ参加企業への開業に繋がるサポート体制の構築等、様々な方策を検討し、提案していく。</p> <p>【資格・免許の取得率】 ①学生の疑問に対して気軽に教職員に質問ができ、サポートスタッフ間で速やかに連携できる体制を構築する。 ②現在、休日に特別講座を実施しているが、その映像をオンデマンド配信することで、時間がとりづらい社会人学生への学習の機会を増やしていく。 ③キャリア支援センターと国試対策委員会が連携し、就職先を早期に決定することにより、資格取得へのモチベーションを向上させる。 ④既卒生についても現役生に実施している実力試験や国試直前合宿等に参加できるように検討する。</p> <p>【卒業生の社会的評価】 ①キャリア支援センターのマンパワーを高め、卒業生の就職先を訪問できる体制を構築することにより、卒業後動向を把握し、データベース化していく。 ②③校友会で卒業セミナーを開講し、卒業生の来校機会を増やし、情報収集に努める。また、卒業生が希望する内容のセミナーを増やし、卒業生の実態把握、連携強化を促進していく。</p>	<p>【就職率】 ・キャリア支援センター内で、じっくりと相談できる環境を整備しており、勉強もできる場として開放することで、気楽に相談できる場を提供している。 ・開業セミナーを開講するだけでなく、当業界専門の経営コンサルタントや行政書士など専門家の相談を個別に受けられるシステムを構築している。</p> <p>【資格・免許の取得率】 ・入学時のオリエンテーションの充実により、学力の把握や学習態度を早期に把握し、SAを中心とした学習支援に取り組んでいく。 ・アクティブラーニングにより、能動的な学習態度を醸成している。また小テストを繰り返し行う中にも、ゲーム感覚で振り返りができるような学びの工夫をしている。 ・国家試験対策として一部の学生を対象に国試直前合宿を行い、充実したラストスパートの環境を提供している。 ・国家試験不合格の卒業生に対しては、個別相談はもちろんのこと、正規授業への聴講制度の利用、在校生用国試対策補講への参加、特別講座への受講等が可能である。</p> <p>【卒業生の社会的評価】 ・美容鍼灸領域において、美容鍼灸院の院長やセミナー講師など活躍する卒業生が増えている。また美容鍼灸研究組織を立ち上げ、医学的エビデンスに基づく美容鍼の研究を進めている。 ・高齢者鍼灸のゼミにおいては、認知症と高齢者不定愁訴に関する高度な知識を備え、さらにそれらの予防と治療を実践できる Gold-QPD 鍼灸師の資格を取得した卒業生も、多数輩出している。</p>

<p>(総括) 最近では、施術所やクリニック・介護施設での勤務のみならず、スポーツトレーナーや美容鍼灸の分野、ホリスティックな視点での健康産業分野での起業など、幅広い分野で活躍をしている卒業生が増えている。</p> <p>(課題) ①卒業生も活用できる求人検索サイ(Career Map)を活用するなど、情報発信や調査を行う際の方法を構築していく。②卒業生を対象とした、卒後セミナーの定期的な開催に取り組む。③卒業生の交流の場である校友会との更なる連携強化を図っていく。</p>		
---	--	--

最終更新日付	令和3年8月20日	記載責任者	木下 美聡
--------	-----------	-------	-------

4-13 就職率

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 就職率に関する目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 学生の就職活動を把握しているか <input type="checkbox"/> 専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行う等、就職に関し関連業界等と連携しているか <input type="checkbox"/> 就職率等のデータについて適切に管理しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> 希望就職率 100%と目標設定している。就職活動は2年生の10月から開始し、3年生の9月調査で70%の内定を目標としている。今回は80%を達成した。 入学時にキャリアカードを提出してもらい、入学の動機となった進路の希望を調査することから始まり、2年生では3回の進路調査を実施し、面談を経て、就職合同説明会参加へと導いている。3年生では「中間進路調査書」2回、卒業時の「進路報告調査書」と、個別の「内定報告書」を用いて就職活動の状況を把握している。 2年生後期から卒後の就職を前提とした当業界でのア 	<ul style="list-style-type: none"> 就職率が100%でも、就労継続できなければ十分でないと考えているが、提出された求人票の内容の後追いが十分ではないため、それをどう解決していくかが課題である。 就労継続の状況は本人から情報を得にくいいため、施術所側にも協力を得て調査しているが、人事担当者のいない院への負担が懸念される。 柔道整復師は開業のために一定の実務経験が必要となった。これにより、開業 	<ul style="list-style-type: none"> 学生の適正なキャリアを支援するため個人面談の機会を増やし、情報収集にも力を入れる。 就職後に求人票と異なる報告を受けたら、求人先に連絡して詳細を確認し、無料職業紹介所としての指導要綱に基づき指導する。 施術所の訪問、施術所スタッフの訪問により、顔の見える関係を構築している。働きやすさのための条件改善の提案も積極的に行う。 業界に精通した複 	

		<p>アルバイトを始める学生が増えてくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職先は具体的に把握しており、在学中の内定はほぼ関連業界への就職である。 ・業界との強いつながりを作るため、就職合同説明会や施術デモンストレーション・セミナーなどを同時に行う「業界フェスタ」を、年4回・全学年を対象に開催している。 ・柔道整復学科において、就職活動スタートの2年生には「臨床現場学習会」を実施している。 ・就職率はキャリア支援センターで集約しており、個人情報の取り扱いに関してはコンプライアンスを徹底し、活用用途を明確にして情報提供をしている。 	<p>をサポートいただける院の開拓が今後の課題である。</p>	<p>数の就職支援会社から企業情報を得る等、多角的に精査を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校友会でも卒業生の状況を把握するため、各種 SNS の活用や専用メールアドレスの開設など、社会人が連絡を取りやすい手段を増やしていく。 ・開業支援に関する調査を実施し、開業希望者には支援のある院とのマッチングを試みる。 	
--	--	--	---------------------------------	---	--

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>・本校では進路決定してから、国試準備に入るスケジュールを推進している。早期進路決定のために、1年生から参加できる業界フェスタを開催している。業界フェスタによって、業界を理解し、学びの意欲を高めている。2年生から就職を前提としたアルバイトが決まることも増えている。本人にとっても就職先にとっても望ましい形であるため、今後さらに促進させていく。</p> <p>・卒業生の就職先との強いつながりによって、臨床現場で必要とされる人材像の明確化と、学校教育の充実を図っている。入学者の志向と業界の動向を常に把握しながら、就職先の新たな開拓をして、就職率を高めている。今後は、一般企業の健康管理の分野へも活躍の場を求めべく企業との連携が肝要と考え、当事業に取り組んでいる企業との連携も進めている。</p>	<p>・独立した部屋をキャリア支援センターとして開室し、じっくりと相談できる環境を整備している。食事をしたり、勉強もできる場として開放することで、気軽に立ち寄り、雑談から相談に及ぶことも多い。単に就職支援とせず、一人ひとりの人生設計に寄り添った支援を心がけている。（令和2年度は感染症予防のため、食事・勉強での利用を一時的に制限。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア支援センターにはスタッフが2名在職し、就職相談・就職活動支援・開業支援・進学支援・就職先の開拓等を行っている。2・3年生のクラス担任教員が参画する「キャリア支援委員会」が、キャリアに関する整備を担当している。 ・キャリアに関することは「キャリア支援委員会」から各学科に連絡され、クラス担任教員を通じて各学生に伝達されるシステムが作られている。 ・学校に寄せられる求人数は就職対象者の約20倍あるが、個人の希望と将来にマッチした就職を推進するために、厳選した就職支援会社との連携も活用している。

	・開業セミナーを開講するだけでなく、当業界専門の経営コンサルタントや行政書士など専門家の相談を、個別に受けられるシステムがある。
--	--

最終更新日付	令和3年8月16日	記載責任者	山田 詩子
---------------	-----------	--------------	-------

4-14 資格・免許の取得率

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 資格・免許取得率に関する目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか <input type="checkbox"/> 合格実績、合格率、全国水準との比較等行っているか <input type="checkbox"/> 指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「入学者全員が国家試験に合格する」ことを目標に、1年次よりプログラムを作成し、「自ら学ぶ」をキーワードに学習支援を取り組んでいる。 ・過去の合格実績と、国家試験科目授業の GPA や実力試験結果との関連性を確認・分析し、常に指導方法改善を意識し、PDCA を回している。 ・受験生となる直前の2年生最後の春休みを利用し、国家試験対策「春の特別講座」を行っている。 ・外部講師による学習支援も積極的に取り組み、支援内容に工夫を凝らしている。 ・国家試験の近年の傾向を分析・予測し、それぞれの学科の国試対策委員が中心となって対策を立てている。 ・過去問題を研究した学校独自の問題も日々の小テストや実力試験等で活用し、早い段階で国家試験を意識する工夫をしている。 ・授業開始時のふりかえり小テストやグループワークを中心として、能動的に思考する能力や、主体的に学び合える環境を作っている。 ・卒業生をチューターとして 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習面に不安を抱く学生に対して、入学直後から学習支援を行う体制をつくり、一人一人に寄り添う環境ができた一方で、自ら主体的に学ぶモチベーションを育てていく指導方法が今後の一番の課題である。 ・多忙な社会人学生の仕事に対する学習支援が課題である。 ・免許取得のために学校が提供する学習支援に対し、参加意欲の低い学生をいかに参加させるかが課題である。 ・連続して国家試験不合格となった卒業生への学習面と精神面のサポートが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強習慣が身に付くように、授業等の疑問を気軽に教員、職員、チューター等に質問できる学生との関係性を常に心掛けている。 ・無断欠席とモチベーションの低下には関連性があると考え、欠席状況がわかるシステムを取り入れ速やかに連絡し、学生とのラポールの形成を常に心掛けている。 ・休日を活用して、特別講座を行っている。その映像をオンデマンド配信することで、時間がとりづらい社会人学生などの学習の機会を増やしていく。 ・キャリア支援センターと国試対策委員とが連携して、就職先の早期内定獲得により、資格取得の為のモチベーション向上に繋げている。また、卒業生の資格取 	

			<p>起用し、学生の将来像に近い存在として気軽に学習・進路相談ができる環境づくりを行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国試対策委員会で、指導方法と実力試験結果との関連性を毎月分析し、指導方法の改善のPDCAを常に回している。学生への声掛けやアンケート等で学生からの意見も積極的に取り入れ、また、国家試験予備校など外部講師にも相談し意見をもらい、学生にとって最善の指導法となるよう常に改善を行っている。 ・学園全体では指導法の研修が行われ、教職員のだれもが参加できるシステムとなっている。 ・国家試験半年前と直前に、特別合宿を行い、最後の最後まで全員合格を目標に積極的に学習支援を行っている。 		<p>得のための状況把握も進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連続して国家試験不合格となった卒業生へのサポートとして、実力試験や特別講座等への参加ができるように進めていく。 ・次年度、スチューデントアシスタント(SA)制度の導入に向け準備を進めている。学年を越えた先輩と後輩の学び合いの学習支援を行い、学生に近い存在として、学校生活等に関する相談もできる環境づくりを整え、モチベーションの維持・向上を図りたい。 	
--	--	--	---	--	--	--

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・「入学者全員が免許取得」を目標に、国試対策委員会を結成して、柔整・鍼灸それぞれの目線で意見を出し合い、学生の動向を見極めながら、つねに最善の対策を心掛けPDCAを回している。入学直後から学習支援を行い、国家試験の指定科目の学習レベルを高め、年に2回実力テストも行い、成績下位者には個別対応を行っている。3年次になるとほぼ毎月外部模試を行い、現時点での実力を客観的に評価し、免許取得に向けたPDCAを回している。 ・実力テストや外部模試を参考に合格率の分析を継続している。成績不良者はクラス担任を中心に国試対策委員等が個別に学習サポートについている。必要であれば校長が面談をし、学生のモチベーション向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時のオリエンテーションの充実により、学力の把握や学習態度を早期に把握し、学習支援を開始している。また、クラスの目標を決めて、クラスが一丸となって国家試験合格への意欲を持てるように指導している。次年度には、上級生によるスチューデントアシスタント(SA)制度の導入に向け準備をしている。 ・定期テストだけでなく、実力テストを学生と教員が苦手分野等の情報を共有しながら一緒に合格までのプランを考えている。 ・アクティブラーニングにより、個々の能動的な学習態度を育成している。小テストの繰り返しなど、ゲーム感覚で振り返りをする学びの工夫などもしている。 ・成績不良学生を対象に国試直前合宿を行い、充実したラストスパートの環境を

<p>・柔道整復学科は昨年度、合格率向上の効果があつたと評価できたため、今年度も予備校講師による国試対策特別講座を取り入れている。</p>	<p>提供している。</p> <p>・卒業後もいつでも個別相談できるように、国試対策委員や学科教員が対応している。また、国家試験不合格の卒業生に対しては、希望者に聴講制度の利用、在校生国試対策への参加、授業外の特別講座の受講を可能にしている。</p>
---	---

最終更新日付	令和3年8月17日	記載責任者	森下 友雄 亀谷 文人
--------	-----------	-------	----------------

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	<input type="checkbox"/> 卒業生の就職先の企業、施設・機関等を訪問する等して卒業後の実態を調査等で把握しているか <input type="checkbox"/> 卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・本人と就職先の双方から、卒業後の実態を調査している。 ・校友会と学校全体で卒業生の実態を把握し、開業した際は、学校のホームページに掲出し、社会的評価を共有できるようにしている。 ・開業する卒業生も増加し、地域医療の担い手として活躍している。在校生のアルバイトは卒業生の院を優先して紹介するなどして、社会貢献のつながりを築く努力をしている。 ・卒業生が開業している院が、技術面だけでなく社会貢献度の高い接骨院・鍼灸院が選出される「BEST 治療院100」に複数選出されている。 ・卒業生が、健康維持、ケガ・疾病予防のためのプログラ 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生も活用できる求人検索サービス（CareerMap）を活用し、情報発信や調査などを行っている。卒業時の登録を徹底して、学校とのつながりを継続することにもつなげたい。 ・卒業生の評価向上に向け、卒後セミナーを定期的に行う等努める必要がある。 ・卒業生の校友会への積極的な参加促進が今後の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア支援センターのマンパワーを増強し、卒業生の就職先を訪問できる体制を構築する。 ・卒業生の開業先等を訪問することで、卒業生の実態を把握し、データベース化する。 ・校友会による卒後セミナーを開講し、卒業生の来校機会を増やすことで、情報収集を強化したい。そのために、卒業生が希望するセミナーを把握し実践していく。 	

			ムで地域貢献している例を、 多数報告を受けている。			
--	--	--	------------------------------	--	--	--

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>・卒業生の社会的評価は、キャリア支援センターで集約している。卒業生を輩出して15年以上が経過し、著作を持ち、テレビや雑誌等メディアを通じて国民の健康づくりに寄与するなど、卒業生の社会的活動も顕著になっている。また、施術所やクリニック・介護施設での勤務のみならず、スポーツトレーナーや美容鍼灸の分野、ホリスティックな視点での健康産業に関与して、起業するなど幅広い活躍をしている卒業生も増えた。研究学会に所属し、専門的な内容の講師を務める卒業生も出てきている。卒業生の活躍は関係組織からも報告を受けられるよう、業界との積極的な連携を働きかけている。</p>	<p>・卒業後、スポーツトレーナーとして活躍するためのしくみとして、教員・卒業生で組織するNITT（日本医専トレーナーズチーム）を結成している。在校生時代にNITTの学生部に所属し、学生チーム・実業団チームなどでスポーツトレーナーインターンとして活動した経験が、卒業後も生かされている。</p> <p>・美容鍼灸は業界では一般化したが、黎明期の牽引力となった卒業生が多数おり、院長やセミナー講師を務めるなど業界をリードしている。また卒業生が美容鍼灸研究組織を立ち上げ、医学的エビデンスに基づく美容鍼の研究を進めている。</p> <p>・高齢者鍼灸のゼミでは、認知症と高齢者不定愁訴に関する高度な知識を備え、さらにそれらの予防と治療を実践できるGold-QPD 鍼灸師の資格を取得し、高齢者鍼灸に関わり社会貢献する卒業生も輩出している。</p>

最終更新日付	令和3年8月17日	記載責任者	山田 詩子
--------	-----------	-------	-------

基準 5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活の目標は、多様なニーズに対応し人々から信頼される医療人となるために、さらには、激動していく社会で自ら生き抜く力を養うために、知識・技術・態度を修得していくことにある。 ・この学生生活の目標を学生一人ひとりが達成できるように、教職員が一丸となり、学修活動、課外活動、経済、健康、就職、卒業後教育等、様々な面から支援している。 ・両学科ともに、全在校生に対して担任が中心となり教職員が協働して学習や学校生活のサポートを積極的に行い、中退者の減少を実現している。 ・令和元年度以降の新型コロナウイルス流行の影響により学生生活の変更を余儀なくされたことが多々あった。この事態に対して、教職員一丸となり種々の変更事項や問題に対応することができた。今後、社会生活や学校生活が大きく変容していくことが予想される中で柔軟にかつ先進的に対応策を考え実行を継続していく必要がある。 ・卒業後の進路に関する学生のニーズが多様化してきており、また社会情勢の変化による就職先の状況も変動している。卒業の目的を早期に明確化させるプログラムを充実させるとともに、今後も保護者や校友会、外部機関との連携をより一層強め、学生生活および、卒業後のキャリアがより豊かになるよう運営していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活が豊かなものになるためには、国家試験合格はあくまで目標の一つとし、資格取得後どのようになりたいのか、学生一人ひとりが明確な目的を持つことが必要である。そのため学校では、自ら考え行動できる医療人を育成することをこれまで以上に意識し、自学自習を促すプログラムやアクティブラーニングなど能動的学習の導入、あるいは臨床実習の質を向上させることにより卒後の将来像のイメージ化を促し、学生が各々の目的を持つことが重要と位置づけており、これらに対する具体的な方策を策定していく必要がある。 ・自らの将来像を思い描き続け、あるいは明確化させていくプログラムを開発実行することが求められている。さらに教職員は、今まで以上に学生個人に寄り添い、個別に対応していくことが必要である。また、企業見学の実施方法も従来の方法のみならず、新たな方法を開発し、社会変化に対応できるものとしていく。それら各種プログラムを通じ、自分の将来イメージをより具体化できるよう働きかけていく。 ・学校内だけの支援に止まらず、保護者や卒業生、外部企業等、学外でのサポートにも取り組むべく、校友会や外部企業との連携強化に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の健康を維持し増進することを目的に、毎年、健康診断を実施し、受診結果は全学生に通知している。また、常設する保健室と付属施術所と連携しながら応急対応している。新型コロナウイルス流行にともなっては学内に対策委員会を設置し、即時的に対応できる体制を構築した。 ・学生生活のサポートに関しては、従来行ってきた対面・電話での対応に加え、文字・映像の方法を駆使したオンラインでの対応を積極的に行っている。 ・通常授業の内容の拡充のみならず、学修の促進・深化を企図して課外活動を設置し、積極的な参加を促進している。現在本校では複数のゼミが行われており、好評を博している。 ・キャリア支援センターでは、入学決定者から卒業生まで、一貫して支援を行っている。アルバイト・就職等の相談のみではなく、学校生活の相談も受け付けており、中退率の抑制に努めている。 ・年 4 回行う就職説明会では、学生全体に向けたものに加えて、個々のニーズに即して分野別・年齢別などのプログラムも用意している。これらには、入学前・卒業後の学生も参加可能とすることで、医療現場との関係性を構築できる場を提供している。 ・卒業生講話やアーリーエクスポージャー（早期臨床体験実習プログラム）の学生受入れなど、卒業生の協力も多岐に渡り得られている。 ・卒業後の研修にも力を入れており、鍼灸学科は、付属施術所で受入研修を実施している。柔道整復学科は、NITT（日本医専トレーナーズチーム）の研修を含め、スキルアップ研修を適時実施している。

最終更新日付	令和3年8月4日	記載責任者	天野 陽介
--------	----------	-------	-------

5-16 就職等進路

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 就職等進路支援のための組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 担任教員と就職部門の連携等学内における連携体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生の就職活動の状況を学内で共有しているか <input type="checkbox"/> 関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか <input type="checkbox"/> 就職説明会等を開催しているか <input type="checkbox"/> 履歴書の書き方、面接の受け方等、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか <input type="checkbox"/> 就職に関する個別の相談に適切に応じているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ではキャリア支援委員会とキャリア支援センターが連携し、就職及び進路相談に関する個別相談に対応している。 ・学科の教職員及びキャリア支援センターの職員で構成された、キャリア支援委員会を設置し、常に情報共有する体制を整えている。 ・年に4回、就職説明会を実施している。また適時、履歴書作成講座や面接実践講座を実施している。就職を目前に控えた時期に、3年次を対象に「医療人のためのコンプライアンス講座」を開講している。 ・卒業生に協力いただき、実際に行った就職活動の話から現在の仕事、やりがい、そして学校生活の中でやっておいた方がよいことなど、学生生活から卒後のイメージまで考えられる卒業生講話のプログラムを2・3年次向けに実施している。その結果、2年次からの就職活動(企業研究)が活発化してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者のニーズが多様化し、『資格取得＝この業界で働く』ではなくなってきている。 また、学校に通う目的が資格取得になっている学生が多数存在する。そのため、各個人の資格取得後の目標を明確にし、個別のサポートを行う必要がある。 ・働き方のニーズも、正社員ではなく、アルバイトや時短勤務など、多様化してきている。 ・柔道整復学科では、制度上卒業後すぐの開業ができなくなった。そのため、開業を目指す学生には、それを見据えた就職指導が必要となる。 ・国家試験の勉強と就職活動の両立が難しい学生が多くいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時からの指導がより重要になってくる。将来を見据えるプログラムを2年次から実施するだけでなく、各教職員と協力し、早い段階で卒業後の目的を明確にできるよう、個別で対応していく。 ・各企業へ近年の学生ニーズを共有し、学校から企業に働きかけ、スタッフが働きやすい環境づくりを提案していく必要がある。 ・進路調査により、学生の開業ニーズを早期に確認し、就職指導を実施していく。また入学後早い段階で、開業にかかる研修期間については共有を実施する。 ・3年次早期に進路決定することで、勉強に集中できる時間を確保していく。 	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
・学生のキャリア教育を目的とした部署である「キャリア支援センター」と、教	・就職説明会には3年次だけでなく、1年次からの参加を可能としている。その

<p>職員で構成する「キャリア支援委員会」で、キャリア教育を行っていく体制を整えている。また、就職支援会社との提携により、学校だけでは補えない、学生のニーズに合わせた求人確保するよう努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア支援センターでは、各学科と協力し、臨床現場で必要とされる社会人が養成できる講習を適時運営するとともに、卒業生にも協力いただき、学生自身がキャリアを考えていけるような取り組みを進めている。 ・学生のニーズが多様化するにつれ、早期にそのニーズを把握し、個別に対応する必要が出てきた。今まで以上に教職員の情報共有を密に行うことが必要である。 	<p>結果、多くの学生が参加し、3年次は就職先を、1・2年次は将来のイメージを持つとともに、アルバイト先や見学生といった企業とのつながりが持てるようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次にはアーリーエクスポージャー（早期臨床学習プログラム）を実施する等、医療人としての心構えを早期に学べる仕組みづくりを行っている。 ・早期進路決定に向け、2年次からの就職活動に注力し、プログラムを実施している。その結果、2年次から3年次に上がる春休みに就職活動を実施し、内定を獲得する意識の高い学生もでてきた。
---	---

最終更新日付	令和3年8月17日	記載責任者	山田 詩子
---------------	-----------	--------------	-------

5-17 中途退学への対応

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか	<input type="checkbox"/> 中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか <input type="checkbox"/> 指導経過記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか <input type="checkbox"/> 退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか	3	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任は、事務局と連携し、出席や成績不良の学生の把握を行い、適宜面談や補講を行うことで退学者減少に努めている。また、非常勤講師にも、授業で気になった点を報告してもらうことで、学生の変化にいち早く気付くような体制を構築している。 ・教職員が学生管理システム（infoclipper）に日々の学生の気付いた点を記録している。 ・中退率削減プロジェクトを組織し、プロジェクトメンバーが対応策を検討し、学科に働きかけをおこなっている。 ・毎週の出席状況を把握し、毎月经営会議にて共有をおこない、欠席が目立つ学生は 	<ul style="list-style-type: none"> ・退学者の中でも1年次の高校新卒の退学者が目立つため、対策が必要である。 ・教職員が予期していなかった学生が突如退学を申し出るケースがあり、潜在的に中退の可能性のある学生（中退予備軍）の抽出に努めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任偏重型からの脱却および学生情報の共有をより円滑におこなうため、職員による副担任制の導入を検討している。 ・スチューデントアシスタント（SA）制度導入し、学生同士が教えあい、学ぶ力を向上させる取り組みを実施していく。 ・入学から卒業まで学生情報管理できる「学生管理台帳」の導入を検討している。これにより、入学前の入学前情報（学歴・職歴や家庭環境など）を把握・整理し、中退の「兆し」のある 	

		<p>面談の上、指導を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績不良者に対する放課後の学習サポートを充実させ、学習機会の増加に努めている。 	<p>学生を予めピックアップできる態勢を整える。</p>
--	--	---	------------------------------

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の変化にいち早く気付けるよう、担任だけでなく、学科全体および教職員間の連携は取れている。 ・欠席超過に伴う単位未修得により、モチベーションの低下を招き、退学に繋がるケースを削減するため、随時学生の出欠席状況を把握している。また、学生自身が出欠席状況を把握できるツール(Webポータル)を導入し、出欠席の自己管理を促している。 ・学費面に関しても、学生が一人で悩まないよう、教育ローンや奨学金など一緒に検討し、随時相談に乗っている。 ・一方で高卒新卒や突如退学を申し出る学生に対する事前予防策を強化していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鍼灸学科では学生チューターを導入し、教員主導のもと、授業後に学生チューターによる補習を実施。学ぶ力を高める取り組みを実施している。次年度は柔道整復学科も導入を検討している。 ・学校生活などの学習面の変化だけでなく、金銭面など生活面での変化にも注意し、学生対応を行っている。

最終更新日付	令和3年8月17日	記載責任者	小浜 悠樹
--------	-----------	-------	-------

5-18 学生相談

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 相談室の設置等相談に関する環境整備を行っているか <input type="checkbox"/> 学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか <input type="checkbox"/> 相談記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 関連医療機関等との連携はあるか	3	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア支援センターに産業カウンセラー資格を有し、臨床経験も持つ教職員が常駐し、学科教員と連携をとりながら問題解決に努めている。 ・クラス担任を中心に、学生の動向を把握しながら学習や学校生活等について個別面談を実施し、面談記録を学生管理システム(infoclipper)に残している。 ・学生が心身の健康相談を行えるよう、メンタルカウンセラーと契約をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任だけでなく、学科・学校全体でサポートできる体制を構築する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任偏重型からの脱却および学生情報の共有をより円滑におこなうため、職員による副担任制の導入を検討している。 ・学校統一の「学生面談シート」の導入を検討している。 	
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 留学生に関する指導記録を適切に保存しているか	3	<ul style="list-style-type: none"> ・中国国籍を有する留学生には中国語で対応できる専任教員が複数名在籍し、対応している。 ・留学生、在校生ともに参加可能な中国語講座や日本語講座を開講している。 留学生には日本語の理解を深め、授業の理解度を上げるとともに、学生間では国籍の壁を越え、活発な交流が行えるよう取り組んでいる。 ・卒業後は就業することが事実上難しいため、進学等特別な事情がない限り帰国するよう指導している。 ・適時留学生と面談し、その記録を残している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強面において言葉の壁で苦勞する留学生が少なくないため、さらなる継続したサポートが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生に配慮したクラス編成をおこなっている。 ・語学講座は継続しておこない、授業になじめるようサポートを続ける。 ・留学生交流会等、留学生の悩みや疑問を自然な形で聞ける機会を継続して検討していく。 	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任だけでなく、教職員がそれぞれの立場で学生に接し、常に相談しやすい環境を整えている。教職員と学生とは一定の距離感は保ちつつも、常に相談できる雰囲気づくりを心がけている。なお、次年度には職員による副担任制の導入を検討している。 ・キャリア支援センターでは、キャリア支援委員会と相談しながら学生相談の有効性を高めている。守秘義務や個人情報保護に関する事例もあり、相談内容は慎重に扱っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生管理システム(infoclipper)を全教職員が操作でき、学生情報を閲覧できる体制を整えている。 ・学生が心身の健康相談を行えるよう、メンタルカウンセラーと契約をしている。

最終更新日付	令和3年8月17日	記載責任者	小浜 悠樹
--------	-----------	-------	-------

5-19 学生生活

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校独自の奨学金制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 学費の減免、分割納付制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 大規模災害発生時及び家計急変時等に対応する支援制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 全ての経済的支援制度の利用について学生・保護者に十分情報提供しているか <input type="checkbox"/> 公的支援制度も含めた経済的支援制度に関する相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 全ての経済的支援制度の利用について実績を把握しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・学校独自の特待生制度、在校生奨学生制度を整備している。 ・令和2年度は、有資格者特待生コース・W資格制度など、キャリアアップを目指す学生を支援する制度について、HPやOCの機会を積極的に活用し、入学検討者への周知を行った。 ・学費は一括納入を原則としているが、手続きにより分割納入も可能としている。 ・学費担当は、大規模災害時及び家計急変時には日本学生支援機構奨学金制度について学生に情報を提供している。 ・奨学金や教育ローンについての情報提供や相談、利用実績の把握は行っているが、地方自治体の公的支援制度についての利用実績は把握していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より学生が学びやすくなる減免制度の整備をおこなう。 ・学費の支払いが困難であることに起因した休退学者に対する対応を再考する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のニーズを常に把握し、ニーズに合った減免制度に見直していく。 ・経済的理由による休退学や、学費滞納が発生しないよう、事前に分納や奨学金の相談に応じ、支払計画を学生と作成する。 ・学費支払に問題のある学生について、担任・職員との情報共有をおこない、総合的に休退学を防止する。 	
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校保健計画を定めているか <input type="checkbox"/> 学校医を選任しているか <input type="checkbox"/> 保健室を整備し専門職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 定期健康診断を実施して記録を保存しているか <input type="checkbox"/> 有所見者の再健診について適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 健康に関する啓発及び教育	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画が未整備である。 ・保健室を整備しているが、専門職員は配置していない。 ・毎年健康診断を実施し、記録を保存している。有所見者に対しては、書面で再検査を指導している。 ・健康に関する教育は授業内 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画が未整備なため策定する必要がある。 ・授業以外での健康や禁煙および喫煙マナーに関する啓発活動を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画を定める。 ・喫煙マナーに関する啓発活動を行う。 	

	<p>を行っているか</p> <p><input type="checkbox"/>心身の健康相談に対応する専門職員を配置しているか</p> <p><input type="checkbox"/>近隣の医療機関との連携はあるか</p>		<p>で行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生が心身に関する健康相談を行えるよう、メンタルカウンセラーと契約している。 ・近隣の医療機関とは連携していないが、新型コロナウイルス感染症対策に関しては、非常勤講師の医師(内科医)に適宜相談し指導を仰いでいる。 ・新型コロナウイルス感染症対策の一環として、登校前、登校時の体調チェックを徹底し、登校へ不安がある学生からの相談について、教職員が連携を図り対応している。 			
5-19-3 学生寮の設置等生活環境支援体制を整備しているか	<p><input type="checkbox"/>遠隔地から就学する学生のために寮を整備しているか</p> <p><input type="checkbox"/>学生寮の管理体制、委託業務、生活指導体制等は明確になっているか</p> <p><input type="checkbox"/>学生寮の数、利用人員、充足状況は、明確になっているか</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅外通学生の割合は少ないが、「東仁学生会館」、「学生情報センター」、「共立メンテナンス」と提携することで学生寮を確保している。 ・遠隔地から就学する入学希望者に対して、学生寮の紹介を行っている。また、適宜利用状況等を把握している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活指導は、クラス担任が行っているが、寮との連携をとっていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・契約先と連携して学生の状況を把握する。 	
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	<p><input type="checkbox"/>クラブ活動等の団体の活動状況を把握しているか</p> <p><input type="checkbox"/>大会への引率、補助金の交付等具体的な支援を行っているか</p> <p><input type="checkbox"/>大会成績等実績を把握しているか</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動は2団体が組織され、活動費の補助や道場等の施設の貸出しを行っている。 ・部活動顧問には専任の教員がつき、年に1回活動報告書の提出を義務付けている。 ・課外活動(部・同好会活動)規程の整備を行い運用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、部活動は一時休止とした。 		

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の経済的側面の支援体制は、学費の分納制度や公的な奨学金、教育ローンの案内を行うことにより対応している。また、「緊急採用・応急採用」制度を紹介し利用を進める等、経済的困窮を理由とした中途退学が生じないよう最大限配慮している。 ・健康管理については、法令で定められた健康診断を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生寮は、自己所有していないが、信頼できる提携寮を紹介することにより、学生のニーズに対応している。 ・課外活動は、人的・費用的な面で支援を行い、学生が充実した活動ができるよう心がけている。

最終更新日付	令和3年8月23日	記載責任者	吉田 智哉
--------	-----------	-------	-------

5-20 保護者との連携

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	<input type="checkbox"/> 保護者会の開催等、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 個人面談等の機会を保護者に提供し、面談記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 学力不足、心理面等の問題解決にあたって、保護者と適切に連携しているか <input type="checkbox"/> 緊急時の連絡体制を確保しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の保護者会は、コロナ禍により対面での実施はできなかったものの、8月に高卒新卒者が多い柔道整復学科昼間部3年の保護者向けにZOOMで開催した。国試にむけての支援体制の説明と家庭におけるサポートの協力をお願いした。 ・学力不足、心理面等の問題解決にあたって、対面授業ではない分、より細やかに各担任が保護者との連携をとった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者がより簡単に学生の情報（出欠席、成績等）を把握し、学校との連携を取れる仕組みが必要である。 ・学生はもちろんのこと、保護者の入学後の安心感を高めるための取り組みを検討していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会以外でも保護者の意見や要望をいただける機会を設け、保護者のニーズを深掘りする。 	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復学科昼間部に関しては新卒（高校卒業）の入学者が多く、保護者との連携が大変重要である。出席や成績の状況に応じて、クラス担任より、保護者へ報告・連絡・相談を適宜行っているが今後は、保護者側からも気軽に相談できる方法など、さらに緊密な協力体制を検討する必要がある。 	

最終更新日付	令和3年8月18日	記載責任者	伊藤 真紀
--------	-----------	-------	-------

5-21 卒業生・社会人

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 同窓会を組織し、活動状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 再就職、キャリアアップ等について卒業後の相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 卒業後のキャリアアップのための講座等を開講しているか <input type="checkbox"/> 卒業後の研究活動に対する支援を行っているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生及び教職員で構成される校友会を組織している。また校友会役員には学校教職員も含まれており、活動状況が把握できる状況にある。 ・卒業後は希望によって、キャリア支援センターで再就職支援を実施している。また、求人検索サービス（CareerMap）の導入により、卒業生の求人閲覧も可能となった。 ・図書室や教室・実技室を利用可能とし、研究活動の設備面での支援を行っている。 ・校友会より、研究活動における資金助成を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校友会の活動や取り組みの情報共有を徹底する必要がある。 ・卒業生も活用できる求人検索サービス（CareerMap）の認知度が低く、告知が必要である。 ・研究助成制度の認知度が低く、告知が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生に関しては年に1度の校友会総会にて都度共有を行っていく。 ・HPやSNSを活用し、卒業生に向けた情報発信を校友会と連携して行っていく。 ・在校中にCareerMapを認知してもらえるよう、学校からの連絡ツールとして利用する。 	
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 関連業界・職能団体等と再教育プログラムについて共同開発等を行っているか <input type="checkbox"/> 学会・研究会活動において、関連業界等と連携・協力を行っているか	3	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生と教員で構成したNITT（日本医専トレーナーズチーム）を有し、プロバスケットボールチーム、大学アメフト等に対するトレーナー活動を行っている。 ・医療従事者向けセミナー団体によるセミナーを開催し、卒業後も学びの場を提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き校友会と連携して具体的なプログラム開発に取り組む必要がある。 ・現在は、一般社団法人日本スポーツ障害予防協会とスポーツにおけるけが予防に関する講習会を検討中。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部からセミナーのお声掛けをいただける企業が複数ある。卒業生がどのような教育を求めているのかを把握し、プログラムを組んでいく。 ・コンサル企業と提携し、独立・開業希望者向けに、複数回の卒後プログラムを検討している。 	
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教	<input type="checkbox"/> 社会人経験者の入学に際し、入学前の履修に関する取	3	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人経験の有無に関わらず、学生便覧に従い、有資格 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期履修制度の予定はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期履修制度は予定していないが、校 	

育環境を整備しているか	扱いを学則等に定め、適切に認定しているか <input type="checkbox"/> 社会人学生に配慮し、長期履修制度等を導入しているか <input type="checkbox"/> 図書室、実習室等の利用において、社会人学生に対し配慮しているか <input type="checkbox"/> 社会人学生等に対し、就職等進路相談において個別相談を実施しているか	者や既に学修した科目については履修免除を行っている。 ・社会人学生の多い夜間部でも昼間部同様、実技室開放や補講により、技術と知識を高める対策を行っている。 ・進路相談においては希望就職先への就職を目指し、クラス担任とキャリア支援センターが協働して個別相談を実施している。		友会との連携強化を図り、卒業生セミナーを実施することで、学びの更なる充実に努める。	
-------------	--	---	--	---	--

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の支援体制を整備することを、重要な取り組みと認識している。新入生の確保がますます厳しくなる状況の中で、卒業生による母校の評価が、「集まる学校づくり」には欠かせない要素であると認識している。 ・キャリア支援センターでは、卒業生にキャリア支援を提供している一方で、卒業生講話、卒業生の治療院見学・採用等協力を得ている。 ・校友会との連携を強化し、卒業後の学びの充実に努めたい。そして卒業生に喜ばれる、卒業生のための支援を強化して行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生に対しても、アスレティックトレーナー研修とメディカルアプローチ研修の総合的な学びを得るために、アメリカ・フロリダ研修への参加を奨励している。 ・また、上海中医薬大学、遼寧中医薬大学への海外研修や短期留学の機会を提供している。 ・校友会と連携し、これらの海外研修に対する助成を行い、卒業生に継続した学びの機会を提供している。また、グローバル人材の育成や、高齢化社会や地域医療への貢献を目指した、新たな海外研修先・国内研修先の開拓を計画している。

最終更新日付	令和3年8月17日	記載責任者	山田 詩子
--------	-----------	-------	-------

基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・施設設備は、専門学校設置基準及び柔道整復師養成施設設置基準、はり師きゅう師養成施設設置基準に適合するよう整備を行っている。また、法令を順守しつつ、適切な設備となるよう点検を実施している。 ・学生数の増加や建物の劣化に伴う修繕や改装について、中長期的に計画を立てて取り組んでいきたい。令和 2 年度は、耐震対策として、大規模外壁修繕により有事の際の対策を講じた。 ・鍼灸学科の中国研修、柔道整復学科のアメリカ・フロリダでのトレーナー研修は、令和 2 年度については新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できなかった。 ・平成 30 年度のカリキュラム変更に伴い、柔道整復学科は施術所・整形外科・介護施設での実習内容を再構築し、鍼灸学科昼間部は 2 年次、夜間部は 1 年次から付属の治療院への見学及び実習を組み込んでいる。 ・柔道整復学科の臨床実習に関しては、実習目的や内容、諸プログラムについての整備をおこないルールを策定した。さらにガイドラインに基づいた諸資料を完成させ、円滑でわかりやすい実習の実施及び学生の評価に繋げた。また外部実習施設に対しての説明会を実施し、実習目的や内容に対して共通認識をもって取り組めるようにした。 ・防災に関しては、法令に基づいた点検等を実施することにより施設設備の安全を担保している。教職員・学生での災害を想定した避難訓練を行っている。 ・平成 29 年度に発足した事故対策委員会では、定期的に事故の発生状況を共有し、あらゆる事故の発生時に対応したフロー・マニュアルを整備、事故を未然に防ぐことに寄与している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生数の増加に伴い、限られたスペースを有効活用できるよう、抜本的に検討をおこなう必要がある。また、経年劣化に関しては、中期長期での修繕計画を立案し実施する必要がある。 ・柔道整復学科のアメリカ・フロリダ研修、鍼灸学科の中国研修と、海外研修の制度を充実させつつ、更なる研修地の検討に向けて情報収集を進めていく。 ・在校生だけではなく、卒業生に対する中国留学研修についても、校友会・附属治療院・ゼミとの連携等を含め今後検討をおこなっていく。 ・「臨床実習」については、対象学年の拡大に伴い、受入企業の更なる増強が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復学科は、セントラルフロリダ大学・IMG アカデミーでのアメリカ・フロリダ研修を、鍼灸学科は上海中医薬大学および関連施設での中国研修を実施している。各学科の 1, 2 年次の成績優秀者各 4 名を在校生奨学生として選定し、学校が研修経費を負担し、学生を支援している。 ・平成 30 年度のカリキュラム変更により、臨床実習の時間数が増大している。それに伴い「臨床実習指導者講習会」を主幹し、受入企業の拡大を図っている。

最終更新日付	令和3年8月23日	記載責任者	吉田 智哉
---------------	-----------	--------------	-------

6-22 施設・設備等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	<input type="checkbox"/> 施設・設備・機器類等は設置基準、関係法令に適合し、かつ、充実しているか <input type="checkbox"/> 図書室、実習室等、学生の学習支援のための施設を整備しているか <input type="checkbox"/> 図書室の図書は専門分野に応じ充実しているか <input type="checkbox"/> 学生の休憩・食事のためのスペースを確保しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備のバリアフリー化に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 手洗い設備等学校施設内の衛生管理を徹底しているか <input type="checkbox"/> 卒業生に施設・設備を提供しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等について適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備等の改築・改修・更新計画を定め、適切に執行しているか	3	<ul style="list-style-type: none"> ・養成施設の指定規則及び専門学校設置基準に基づき整備している。 ・専門学校設置基準や厚生労働省養成施設の指定規則、特定建築物定期調査、その他公的基準に定められた規定を順守するとともに、適切なメンテナンスを実施している。 ・清掃業務を委託し、平日及び土曜の規定時刻に実施している。 ・建物老朽化に伴う大規模外壁修繕工事を実施した。 ・新型コロナウイルス感染症対策として、アクリル板/消毒液/サーマルカメラを適宜設置した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建物老朽化に伴う不具合の補修計画を策定・実行する。 ・事務局移転に伴い、不要書類の削減が必要になる。 ・学生の学習環境の整備及び教職員の業務遂行の円滑化のため校内のインターネット環境を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎建築は20年以上経過し、老朽化に伴う不具合が生じてきている。策定した修繕計画において優先度の高い施設設備を選定し、順次実行していく。 ・活用書類/保管書類/保存書類に現資料を区分けした上でデータ化を呼びかけ、書類削減をめざす。 ・インターネット環境整備のため、学園本部と連携しつつ計画を策定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・養成施設設置基準 ・専門学校設置基準

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・各行政機関の現地調査は適宜行われ、改善点や不足、不具合等があれば随時対応している。校舎建築にて生じている老朽化に伴う不具合について改修計画を実行するとともに、日常的な補修についても適宜適切に対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門学校設置基準のみならず、厚生労働省の指定養成施設として、法に定められた養成施設設置基準を順守している。

最終更新日付	令和3年8月3日	記載責任者	山田 紗梨恵
--------	----------	-------	--------

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学外実習等について、意義や教育課程上の位置付けを明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか <input type="checkbox"/> 学外実習について、成績評価基準を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか <input type="checkbox"/> 学外実習等の教育効果について確認しているか <input type="checkbox"/> 学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか <input type="checkbox"/> 卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先等に行事の案内をしているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復学科では学年毎の学修状況と並行し学外実習を位置付け、施術所・整形外科・介護施設での実習内容を組み立てている。 ・柔道整復学科ではコロナ禍に配慮した実施要綱を使用し、感染防止対策に努め実施した。 ・柔道整復学科では臨床実習前に外部企業を招いた接遇・マナーや開業に関する学習の他、実習目的や各自の目標設定などの事前学習を行い、代替演習においても関連企業によるオンライン受講を実施し職業理解に努めた。 ・柔道整復学科における臨床実習の受け入れ先へは、ルーブリック評価表を用いて評価をお願いし、学生へフィードバックできるようにしている。 ・コロナ禍での外部実習であり例年に比べより一層実習先への連絡を密に行い実施の判断を早々に対応することができた。 ・NITT 学生部のインターン派遣先を拡充し、より多くの学生が現場体験できる機会を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復学科の臨床実習に関して、外部実習施設の拡充に伴い、実習目的や内容、諸プログラムに対する認識を統一し、ルールを整備する必要がある。 また、学校独自の施設要件の設置も検討する。 ・柔道整復学科では実習後調査が手薄になっており、再構築に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復学科では、評価内容、外部実習施設や学生からのアンケートをもとに現状を把握し、精査する。またそれを、外部施設へ共有し、実習の充実に努める。 ・担当者 MTG にて実習要綱のPDCAを回し、改善策を練る。それに伴い、実習施設要件を検討していく。 	

--	--	--	--	--	--

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>・外部実習は臨床実習の時間数増加もあり、より一層力を入れていく必要がある。企業とより深く連携し、教育を進めていくためにも、学校の教育理念や指導方針を共有していく機会を設け実施していくことが重要である。今後も実習先の開拓を進めていく。</p> <p>・海外研修については、セントラルフロリダ大学・IMGアカデミーでのプログラムを中心としたアメリカ・フロリダ研修、鍼灸の講義・実習を中心とした上海中医薬大学および関連施設での中国研修を実施している。各学科の1, 2年次の成績優秀者各4名を在校生奨学生として選定し、学校が研修経費を負担し、学生を支援している。</p>	<p>・海外研修、外部実習では新型コロナウイルスの影響が大きく、柔道整復学科では3年接骨院実習と介護実習に関しては早々に演習に切り替えた。また、緊急事態宣言下での外部実習も中止と判断し、年度内の実習の多くは代替演習となり、教育効果の低下が懸念される。今後、フォロー体制を構築する必要がある。</p> <p>・なお、海外研修は実施できなかったものの、上海中医薬大学の教授陣によるオンライン特別講義は9月に実施することができた。コロナ禍においても、海外の教育機関とオンラインでの授業展開も積極的に取り組んでいきたい。</p>

最終更新日付	令和3年8月17日	記載責任者	伊藤 恵里
--------	-----------	-------	-------

6-24 防災・安全管理

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的行動のマニュアルを整備しているか <input type="checkbox"/> 施設・建物・設備の耐震化に対応しているか <input type="checkbox"/> 消防設備等の整備及び保守点検を法令に基づき行い、改善が必要な場合は適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 防災(消防)訓練を定期的実施し、記録を保存しているか <input type="checkbox"/> 備品の転倒防止等安全管理を徹底しているか <input type="checkbox"/> 教職員・学生に防災研修・教育を行っているか	2	<ul style="list-style-type: none"> ・学生委員会が中心となり、災害発生時の危機管理マニュアルを作成し、教職員に周知し、各教室に設置済である。 ・建物の定期調査、消防設備等の点検調査を定期的におこない、問題のある箇所について順次改善をおこなっている。 ・備品の転倒防止等の安全管理については、一部出来ていない箇所がある。 ・防災用品について、有事の際に取り出しにくい場所に格納してあることが判明した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・備品の転倒防止策を徹底する必要がある。 ・避難訓練に関しては、年間実施計画を立て、昨年度の反省を踏まえて実施していく。 ・防災用品(非常食等含む)の備蓄を必要数分確保し、さらに取り出しやすい場所に格納場所を変更する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・震災時に転倒の恐れのある設備について、安全管理策を講じる。 ・備蓄品について、不足分を算出して必要分を確保し、専用棚を作成した上で格納する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災計画 ・建物定期調査報告書
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 学校安全計画を策定しているか <input type="checkbox"/> 学生の生命と学校財産を加害者から守るための防犯体制を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 授業中に発生した事故等に関する対応マニュアルを作成し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 薬品等の危険物の管理において、定期的にチェックを行う等適切に対応しているか	3	<ul style="list-style-type: none"> ・事故対策マニュアル・フローを策定している。 ・女子学生更衣室に暗証番号付鍵を設置し、男子更衣室の前に監視カメラを設置することで、侵入者を常に監視できる体制を整えている。 ・校門及び学生共有スペースに監視カメラ・ポスターを設置し、外部の侵入者を常に監視できる体制を整備している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事故を未然に防ぐ活動を検討する。 ・事故対策委員会にて作成した事故発生時のフロー・マニュアルを、専任教員・職員だけでなく非常勤講師までに普及・共有、徹底することが引き続き課題である。 ・校舎移転に伴って拠点が増えたので、各校舎からの避難経路を確認する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事故発生時のマニュアルの内容を見直し、さらに明確かつ詳細なものとする。リスクマネジメントに対する学内体制の見直しと優先順位の高い案件に関する対応マニュアルを作成する。 ・全体講師会等にて、非常勤講師に対し、事故防止策・事故発生時のフロー等について情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・加入の保険証書

	<input type="checkbox"/> 担当教員の明確化等学外実習等の安全管理体制を整備しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・薬品や教育備品の管理担当を設け担当者が責任を持って管理を行っている。 ・学外臨床実習調整者を担当として設け、指導目的等に齟齬が無いように説明会を行っている。 <p>学外実習施設責任者間で学生情報の共有を行い、実習時のトラブルを減らせるように努めている。また、学生に対して学校保険の加入、誓約書の提出、実習前教育を行い、外部実習を行うにあたっての準備を整えている。</p>		<p>を徹底しておこなう。</p>	
--	--	---	--	-------------------	--

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・学校は、多くの学生や教職員が集う施設であり、大規模な震災や家事等により甚大な被害が生じる。特に教職員には防災に対する高い意識と対応力が求められる。今後は、現在策定されている防災計画をもとに、学生・教職員の安全を100%守れる体制を整備していく。また、ハード面では外壁の大規模修繕が急務である。 ・授業中の事故防止策について、専任教員だけでなく非常勤講師も同じ目線で取り組む必要がある。 	

最終更新日付	令和3年8月3日	記載責任者	山田 紗梨恵
--------	----------	-------	--------

基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>・学校は、東京都専修学校各種学校協会に加盟し、同協会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容を順守している。また、適正な学生募集を推進するため、入試広報委員会を設置し、広報活動や入試制度について議論、承認を得る体制を構築している。</p> <p>・広報に関しては、各種媒体、入学案内冊子（パンフレット・募集要項）、説明会への参加やホームページ・SNSを活用し、学校告知を実施し、教育内容等を正しく知ってもらうように努めている。</p> <p>・入学選考に関しては、スケジュールを募集要項に明示し、決められた日程に実施している。また、入試終了後は、学科長、入試広報委員長により、選考書類、面接結果をチェックし合否判定を行っている。AO面談では質問項目については、本校のアドミッションポリシーに適しているか総合的に合否を判断することに加え、志願者のやる気を引き出すような面接試験となるように毎年見直しを行っている。</p> <p>・学納金に関しては、多様な学費減免制度を志願者に明示し、徴収金額は、募集要項に記載している。</p> <p>・コロナ禍においては来校型イベントだけでなく、オンライン型イベントもあわせてハイブリット型の学校説明会を開催するとともに、SNSによる学校情報の配信を積極的におこない志願者の進学選択の参考となるような情報提供に努めた。</p>	<p>・入学生が高校生や社会人など多様化している現状を踏まえて、入学前の属性や経歴、入試結果等のデータ分析を行い、入学者の傾向を事前に把握する。その上で、1年次からのカリキュラムや定期試験作問レベル、評価基準を見直すことで、教育的・財務的視点の両面で中退率抑止に取り組んでいく。</p> <p>・コロナ禍の中での募集活動および入学選考では、安心して学校選びをしていただけるようにハイブリット型を継続していくとともに、LINEなどをさらに活用して高校生の質疑応答にも対応していく。</p>	<p>・柔道整復学科は、スポーツトレーナー育成の施設として学内にコンディショニングセンターを開設し、オープンキャンパスでも模擬体験をおこなった。</p> <p>・鍼灸学科は、“日本鍼灸×中国鍼灸の2つの手技を習得”の違いがわかる実技イベントや、美容・スポーツ・婦人・高齢者の特徴的な4分野のほか、小児鍼など新たな特徴も加えて、学校で学べる鍼灸の素晴らしさを志願者に伝えていく。</p> <p>・『独立開業ゼミ』の開設に向けて、シラバスを作成し、令和3年から開講をスタートする。</p>

最終更新日付

令和3年8月6日

記載責任者

小山 郁子

7-25 学生募集活動

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善策	参照資料
7-25-1 高等学校等 接続する教育機関 に対する情報提供 に取組んでいるか	<input type="checkbox"/> 高等学校等における進学 説明会に参加し教育活動等 の情報提供を行っているか <input type="checkbox"/> 高等学校等の教職員に対 する入学説明会を実施して いるか <input type="checkbox"/> 教員又は保護者向けの「学 校案内」等を作成しているか	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学園全体として、高校訪問 を行い高等学校の教職員へ 入学説明を実施する組織を 設けている。 ・高等学校および高校生向け のWEBページを作成し、職 業理解を含めた情報提供を 行っている。 ・高校 1, 2 年生向けのオー プンキャンパスを開催し、早 期における職業理解に努め ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍というこ ともあり、今年度は 高等学校における進 学ガイダンスに参加 できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ガイダンスへ の参加および模擬授 業の実施をすること を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット ・募集要項 ・ホームページ
7-25-2 学生募集を 適切、かつ、効果的 に行っているか	<input type="checkbox"/> 入学時期に照らし、適切な 時期に願書の受付を開始し ているか <input type="checkbox"/> 専修学校団体が行う自主規 制に即した募集活動を行って いるか <input type="checkbox"/> 志願者等からの入学相談に 適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 学校案内等において、特徴 ある教育活動、学修成果等 について正確に、分かりやすく 紹介しているか <input type="checkbox"/> 広報活動・学生募集活動に おいて、情報管理等のチェック 体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 体験入学、オープンキャン パス等の実施において、多く の参加機会の提供や実施内 容の工夫等行っているか <input type="checkbox"/> 志望者の状況に応じて多様 な試験・選考方法を取入れて	4	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都専修学校各種学校協 会の規制に即し、AO 入試の 開始時期や出願受付時期を 順守し、募集活動を適切に実 施している。 ・学校のホームページやパン フレットには、カリキュラム の概要やゼミなど本校の学 びの特色などの教育活動を 志願者にわかりやすく掲載 している。 ・志願者の入学相談に関し ては、教職員及び在校生や卒業 生が応えている。 ・情報管理は募集管理システ ムを利用し、適切なチェック 体制を整備している。 ・オープンキャンパスを毎週 末に実施しており、各学科の 学びの特徴を体験できる模 	<ul style="list-style-type: none"> 電話やメールでの問 い合わせが苦手な高 卒生志願者に合わせ て LINE などの窓口 を設置したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のカリキュラ ムの特色について、 常に分かり易く発信 するために、学科教 員・教務グループ・入 試広報グループと連 携して情報収集を行 い、ホームページで ニュースや学科ブロ グの更新頻度を上げ ていく。 ・より志願者からの 問い合わせに対応で きるように LINE の 個別相談や SNS の DM などの質疑応答 に対応していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット ・募集要項 ・ホームページ ・学校説明会案内

	いるか		<p>擬授業を行うほか、企業からゲストスピーカーを招聘するなど毎回プログラム内容を創意工夫している。</p> <p>・選考方法では、特待生入試やスポーツAOなど多様な入試制度を取り入れている。</p>			
--	-----	--	--	--	--	--

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>・学生募集活動は、入学案内や募集要項のとおり適正に実施しており、入試広報委員会を設置し検討を行うとともに、学校経営会議で報告・承認するなど学則と照合し、適切な広報活動が行われているかチェックしている。</p>	<p>・オープンキャンパスでは専任講師のほか、企業で活躍するスポーツトレーナーや美容鍼灸師を講師として招聘し、第一線で活躍するプロによる実技体験を企画するなど、志願者が柔道整復師、鍼灸師の職業理解や将来像を深めることできる内容で開催した。またコロナ禍でも志願者が進路選択できるように努めていく。</p>

最終更新日付	令和3年8月5日	記載責任者	沢田 秀樹
--------	----------	-------	-------

7-26 入学選考

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 入学選考基準、方法は、規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 入学選考等は、規程等に基づき適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 入学選考の公平性を確保するための合否判定体制を整備しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・AO 入試においては、アドミッションポリシーに基づき、面談評価表、評価方法シートに沿って運用している。 ・AO 面談や面接試験は必ず2名以上の面接官で実施し、入学選考の公平性を確保している。 ・コロナ禍で志願者の受験機会の損失を防ぐため、ZOOMを使ったオンラインでの面接試験を新たに導入した。 ・最終的には、入試広報委員長および学校長の責任のもと、合否を決定する体制が整備されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AO 入試では、どの面談者が AO 面談を実施しても公平かつ適切な質問・評価ができるようにする。 ・志願者の希望に合わせてオンライン面接試験をより拡充していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入試広報委員会にて毎年 AO 面談の質問項目の見直しをおこない、適切かつ公平性を確保した入試選考基準になるよう議論を重ね決定する。 ・ZOOM のほか Google Meet 等のツールを使ったオンライン面接試験の実施を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験の手続きについての内規
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	<input type="checkbox"/> 学科毎の合格率・辞退率等の現況を示すデータを蓄積し、適切に管理しているか <input type="checkbox"/> 学科毎の入学者の傾向について把握し、授業方法の検討等適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 学科別応募者数・入学者数の予測数値を算出しているか <input type="checkbox"/> 財務等の計画数値と応募者数の予測値等との整合性を図っているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・入学選考に関する情報は、専用の管理システムを利用し、把握・管理を適切に行っている。 ・学科毎の入学生の情報や新入生アンケートの結果は、毎年データ分析を行い全教職員で共有している。 ・学科別の志願者数および入学者数の予測数値の算出を毎年実施している。 ・奨学金の予測数値と着地数値を算出し、財務シミュレーションを毎年実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者の傾向や新入生アンケートの結果により授業方法や魅力的なカリキュラムの構築に繋がれるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去数年間の入学者の情報や新入生アンケート結果をより詳細に分析し、学科やカリキュラム編成委員会と連携して検討を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生情報管理システム ・中期事業計画書 ・新入生アンケート分析

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
-------	--------------------

<ul style="list-style-type: none"> ・アドミッションポリシーに基づいて面談評価表、評価方法シートの改訂をおこなっている。 ・募集要項に入学区分や入学選考の条件等を示している。 ・入試広報グループでは、学科毎に入学生の様々なデータの分析を行い、募集活動はじめ入学後の学修支援に活かしている。 ・入試委員会および経営会議では、常に検討・改善を行い、公正で適切な入試選考となるように努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者数が財務への直接的なインパクトがあるため、3年間の中期事業計画書を毎年作成している。また、定員充足率や中退率を学校経営業績重要指標とし、四半期毎に振り返りを行い、財務数値を算出している。 ・入学生のデータ分析で入学者の傾向を把握し、教育的・財務的視点の両面で中退率抑止に取り組んでいる。
---	--

最終更新日付	令和3年8月5日	記載責任者	相馬 しのぶ
---------------	----------	--------------	--------

7-27 学納金

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	<input type="checkbox"/> 学納金の算定内容、決定の過程を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学納金の水準を把握しているか <input type="checkbox"/> 学納金等徴収する金額はすべて明示しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年首都圏の養成校の学納金一覧を作成し、学納金の水準を把握している。 ・入学者に対しては「学費納入のご案内」で学納金の具体的な内訳を明示し徴収をおこなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学費や減免制度について、全教職員が志願者に適切に説明できるように周知徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・志願者への説明資料として「学費一覧表」「学費減免制度併用パターン表」を毎年情報更新し、全教職員が学費の説明がしやすいよう整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・競合校学費一覧 ・学費一覧表 ・学費減免制度併用パターン表
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱いを行っているか	<input type="checkbox"/> 文部科学省通知の趣旨に基づき、入学辞退者に対する授業料の返還の取扱いに対して、募集要項等に明示し、適切に取扱っているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・入学辞退者に対する授業料返納については募集要項に明記しており、入学辞退者には入学金を除き、納付された学納金はすべて返金している。 			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏の養成校の学納金の水準を把握し、教育上必要な経費を賄うに足る学納金を算定し、決定している。また、入学辞退者には、入学金を除くすべての納付金を返金している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学辞退者には、入学金を除き、納付された学納金はすべて返金している。 ・多様な学費支援制度では減免額や併用可否がわかる早見表を作成している。

最終更新日付	令和3年8月5日	記載責任者	相馬 しのぶ
--------	----------	-------	--------

基準 8 財務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>・学校の財務状況は、学生数の増加に伴い事業活動収入が増加傾向であるが、更に、入学定員確保・中途退学者の削減及び学校運営に関わる経費削減を行うことにより、安定した経営を目指している。</p> <p>・今後の財務基盤の安定化に向けて、毎年継続的に安定した入学者を確保し、かつ、退学者の抑制を図ることが最重要課題である。加えて、経費の見直しや効率化による経費削減を図りつつ、教育効果・学生満足度の向上を見据えたバランスのとれた学校運営を行っていく必要性を強く感じている。</p>	<p>・中期計画に基づき、財務基盤の安定とのバランスを保ちながら教育施設設備の充実を図る一方、入学定員確保と中途退学者の抑制に努める。</p> <p>・経費の更新契約については、定期的な見直しを行い、常にコスト削減に努める。</p>	<p>・学園の集中購買により、定期的な経費の見直しや効率化が図れている。</p> <p>・予算統制標準規程の運用により、効果的な予算編成・執行が可能である。</p> <p>・内部監査室・公認会計士・監事の連携により、財務における監査体制を整備している。</p>

最終更新日付	令和 3 年 8 月 17 日	記載責任者	岡野 成生
--------	-----------------	-------	-------

8-28 財務基盤

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	<input type="checkbox"/> 応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握しているか <input type="checkbox"/> 収入と支出はバランスがとれているか <input type="checkbox"/> 貸借対照表の平成 28 年度繰越収入超過額がマイナスになっている場合、それを解消する計画を立てているか <input type="checkbox"/> 消費収支計算書の当年度消費収支超過額がマイナスとなっている場合、その原因を正確に把握しているか <input type="checkbox"/> 設備投資が過大になっていないか <input type="checkbox"/> 負債は返還可能な範囲で妥当な数値となっているか	4	<ul style="list-style-type: none"> 令和 2 年度の入学者は、ほぼ定員確保となり、定員充足率は 99.6%であった。引き続き、3 カ年中期計画を基に、入学定員確保に向け努力している。 事業活動収入は、学生数増に伴い納付金が増加となり、経常収支差額が昨年を上回るプラスとなった。収支バランスは取れている。また、当年度収支差額はプラスを維持している。 学園の令和 2 年度繰越収支超過額は、施設設備による基本金組入がありマイナスとなったが、必要な設備投資は行える状況で、令和 4 年度には解消できる計画である。負債比率・負債償還率ともに、設置基準の範囲である。 	<ul style="list-style-type: none"> 財務基盤を安定させるためには、各学科における入学定員確保及び中途退学者の削減が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学園行動指針である「チェンジアンドチャレンジ」・「スチューデンプアース」を実行し、競争力強化に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業活動報告参考資料 (入学者数報告) (在校生数報告) 事業活動収支内訳表
8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	<input type="checkbox"/> 最近 3 年間の収支状況（消費収支・資金収支）による財務分析を行っているか <input type="checkbox"/> 最近 3 年間の財産目録・貸借対照表の数値による財務分析を行っているか <input type="checkbox"/> 最近 3 年間の設置基準等に定める負債関係の割合推移データによる償還計画を策定しているか <input type="checkbox"/> キャッシュフローの状況	4	<ul style="list-style-type: none"> 適切な財務運営を行うため、毎年、収支状況および貸借対照表の財務分析を行っている。令和 2 年度は、経常収支差額比率が 22.5 ポイントプラスとなり、全国平均値より 9.2 ポイント高い値である。貸借対照表関連比率は、昨年に比べ、大きな変動はなく、安定的な値で推移している。経費削減に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主要な財務比率状況については、教職員の管理職層にまで広げ、収支意識の強化に努める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 財務分析に基づいた中期計画を立て、予算・収支計画の策定及び、その執行体制を整備する。 	

	<p>を示すデータはあるか <input type="checkbox"/>教育研究費比率、人件費比率の数値は適切な数値になっているか <input type="checkbox"/>コスト管理を適切に行っているか <input type="checkbox"/>収支の状況について自己評価しているか <input type="checkbox"/>改善が必要な場合において、今後の財務改善計画を策定しているか</p>	<p>・令和2年度の負債率は21.5%、負債償還率が5.3%であり、設置基準を満たしている。令和2年度の負債償還計画を基に、計画的に返済を進めている。 経理規程に基づき、月次試算表を作成し、四半期ごとに学園運営会議で報告している。また、収支の均衡状況把握のため、比較財務報告書を作成し、予算管理を行っている。稟議制度により、2社以上の見積もりを行い、適正な支出額の把握に努めている。また、学園の集中購買により、経費削減にも努めている。 必要な財務改善が発生した場合は、翌年の予算編成方針に反映させている。</p>			
--	---	--	--	--	--

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>・財務基盤の安定化には、継続的に安定した入学者を確保することが最重要課題であり、経費の見直しや効率化による経費削減を図りつつも、教育活動の財源確保に努め入学者の確保に努める。</p>	<p>・学園の集中購買により、定期的な経費の見直しや効率化が図れる。</p>

最終更新日付	令和3年8月17日	記載責任者	岡野 成生
--------	-----------	-------	-------

8-29 予算・収支計画

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	<input type="checkbox"/> 予算編成に際して、教育目標、中期計画、事業計画等と整合性を図っているか <input type="checkbox"/> 予算の編成過程及び決定過程は明確になっているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・中期事業計画を年度の予算編成方針に反映させ、予算編成要領に沿って明確な予算編成に努めている。また、予算統制標準規程に基づき、予算会議において、各予算単位の予算原案を審議、学園経営会議で原案を決定、3月の理事会・評議員会で審議決定している。 	・特になし。	・特になし。	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会議事録 ・評議員会議事録
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	<input type="checkbox"/> 予算の執行計画を策定しているか <input type="checkbox"/> 予算と決算に大きな乖離を生じていないか <input type="checkbox"/> 予算超過が見込まれる場合、適切に補正措置を行っているか <input type="checkbox"/> 予算規程、経理規程を整備しているか <input type="checkbox"/> 予算執行にあたってチェック体制を整備する等適切な会計処理を行っているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・予算執行については、予算統制標準規程の第6章「予算の実行」・第7章「予算実績の対照及び再分析」に基づき実行している。 ・予算超過については、科目間の流用で対応しているが、稟議書と予算流用書の提出により、予算と決算に乖離が生じないように努めている。また、内部監査室の会計監査（年3回）において、予算執行状況のチェックを受け、改善に努めている。 	・特になし。	・特になし。	<ul style="list-style-type: none"> ・経理規定 ・予算統制標準規定

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
・予算については、予算統制標準規程に基づき進めており、適切な予算編成及び管理が行われている。	・予算統制標準規程の運用により、効果的な予算編成・執行が可能である。

最終更新日付	令和3年8月17日	記載責任者	岡野 成生
--------	-----------	-------	-------

8-30 監査

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	<input type="checkbox"/> 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 監査報告書を作成し理事会等で報告しているか <input type="checkbox"/> 監事の監査に加えて、監査法人による外部監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 監査時における改善意見について記録し、適切に対応しているか	4	<p>・本学園の寄附行為第 16 条に「監事が財産の状況を監査し、毎年会計年度終了後、2ヶ月以内に理事会及び評議員会に提出する」とあり、これを方針としている。</p> <p>公認会計士による外部監査を行い、財務経理部長の立ち合いの下、監事監査を受ける。</p> <p>監事は、監事監査報告書を作成し、理事会、評議員会に提出している。</p>	<p>・内部監査と外部監査により、財務諸表の妥当性が担保されているが、継続し適正性を確保する必要がある。</p>	<p>・内部監査室・公認会計士・監事と連携を図り、適正な財務諸表作成に努める。</p>	<p>・特になし</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>・財務における会計監査は適正に行われている。内部監査室における会計監査、公認会計士による会計監査、監事監査を行い、監事が監査報告書を作成、理事会に提出している。</p>	<p>・内部監査室・公認会計士・監事の連携により、財務における監査体系が整備されている。</p>

最終更新日付	令和 3 年 8 月 17 日	記載責任者	岡野 成生
---------------	-----------------	--------------	-------

8-31 財務情報の公開

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 財務公開規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 公開が義務づけられている財務帳票、事業報告書を作成しているか <input type="checkbox"/> 財務公開の実績を記録しているか <input type="checkbox"/> 公開方法についてホームページに掲載する等積極的な公開に取り組んでいるか	4	・本学園は、財務書類等閲覧規程に沿って、閲覧希望者に財産目録・収支計算書・貸借対照表・事業報告書・監査報告書等を開示している。 また、学園のHPにて、財務諸表を公開している。	・特になし。	・特になし。	・財務書類等閲覧規程

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
・特になし。	・特になし。

最終更新日付	令和3年8月17日	記載責任者	岡野 成生
--------	-----------	-------	-------

基準 9 法令等の順守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省指定養成施設の関係法令と専修学校設置基準に基づき、学則や諸規程等を整備し学校運営をしている。自己点検・自己評価の過程で諸規程等の点検を心がけているが、組織体制の変更や学生の質の変化等により、現状に合わせて改定していく。 ・ハラスメントに対する教職員の意識は高まっているが、理解が不十分な面があるので、定期的に研修会や注意喚起を実施していく。 ・幸いにして個人情報漏洩等の事故は、今までに起こっていないが、教職員のコンピューターリテラシーに差があり、個々人の意識に依存するのは非常に危険である。よって、早急に規程等を学園として策定し、組織の体制を整備していく。 ・平成 26 年度より、自己評価と学校関係者評価に組織的に取り組んでおり、自己評価の結果を学校関係者の目線で客観的に点検している。今後は、実施時期や評価方法について、さらなる改善を図りたい。 ・教育情報の内容を適切に公開している。引き続き最新情報の公開に努めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・諸規程等を精査し、現状に合わせて整備する。 ・個人情報取扱規程を学園全体として策定する。 ・学生や教職員に対し、周知徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメントに対する考え方を浸透させるために、学生向けガイドブックを配布している。また、相談箱を設置し、相談しやすい環境を提供している。 ・学校が開設したサイトは、セキュリティー対策等の情報漏洩策を講じているが、教職員の意識向上のため、研修を実施していく。 ・平成 26 年度より、関係業界団体の役員等と交え、学校関係者評価委員会を実施しているが、業界のニーズや動向に学校の方向性が合致しているかを確認しながら、主観的でなく客観的に評価を実施している。 ・職業実践専門課程の基本情報をはじめ、常に最新の情報を学校のホームページに公開している。

最終更新日付

令和 3 年 8 月 23 日

記載責任者

吉田 智哉

9-32 関係法令、設置基準等の順守

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を順守し、適正な学校運営を行っているか	<input type="checkbox"/> 関係法令及び設置基準等に基づき、学校運営を行うとともに、必要な諸届等適切に行っているか <input type="checkbox"/> 学校運営に必要な規則・規程等を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> セクシュアルハラスメント等の防止のための方針を明確化し、対応マニュアルを策定して適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 教職員、学生に対し、コンプライアンスに関する相談窓口を設置しているか <input type="checkbox"/> 教職員、学生に対し、法令順守に関する研修・教育を行っているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省指定養成施設の関係法令と専修学校設置基準に基づき、学則や諸規程等を整備し、学校運営をしている。 ・ハラスメントのガイドブックを配布するだけでなく、相談箱も設置し、相談しやすい環境を提供している。 ・教職員・非常勤講師に対してハラスメントの専門家を招聘し研修を定期的を実施する。 ・教職員会議にてハラスメント防止のための注意喚起をしている。 	特になし	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省指定養成施設の関係法令と専修学校設置基準に基づき、学則や諸規程等を整備し学校運営をしている。自己点検・自己評価の過程で諸規程等の点検を心がけているが、組織体制の変更や学生の質の変化等により、現状に合わせて改定していく。 ・ハラスメントに対する教職員の意識は高まっているが、理解が不十分な面があるので、研修会等を継続して啓蒙していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメントに対する認識は、年代や個人の価値観により教職員の認識にばらつきがある。ハラスメントに対する認識を共通化するために、ハラスメント研修会を定期的実施していく。 ・ハラスメントに対する考え方を浸透させるために、学生向けガイドブックを配布している。 ・相談箱を設置し、相談しやすい環境を提供している。

最終更新日付	令和3年8月23日	記載責任者	吉田 智哉
--------	-----------	-------	-------

9-33 個人情報保護

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	<input type="checkbox"/> 個人情報保護に関する取扱方針・規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 大量の個人データを蓄積した電磁記録の取扱いに関し、規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 学校が開設したサイトの運用にあたって、情報漏えい等の防止策を講じているか <input type="checkbox"/> 学生・教職員に個人情報管理に関する啓発及び教育を実施しているか	3	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護に関する取り扱い方針を明確には定めていないが、個人情報の漏洩防止のため、書庫は鍵を掛け、PCは使用者がパスワードを設定し、管理している。 ・学校のホームページは、情報漏洩策を講じている。 ・教職員のリテラシーに差があるため、個別に啓発している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護に関する対策をまとめ、取扱方針と規程を明文化し、学生や教職員に啓発や教育を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報取扱規程を学園として策定する。 ・学生や教職員に対し、周知徹底を図る。 	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・幸いにして個人情報漏洩等の事故は、今までに起こっていないが、教職員のコンピューターリテラシーに差があり、個々人の意識に依存するのは非常に危険である。よって、早急に規程等を策定し、組織の体制を整備していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が開設したサイトは、セキュリティー対策等の情報漏洩策を講じているが、サイト以外での個人情報漏洩防止策を検討し、個人情報の取り扱いをより厳重にする必要がある。

最終更新日付	令和3年8月23日	記載責任者	吉田 智哉
--------	-----------	-------	-------

9-34 学校評価

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	<input type="checkbox"/> 実施に関し学則及び規程等を整備し実施しているか <input type="checkbox"/> 実施にかかる組織体制を整備し、毎年度定期的に全学で取組んでいるか <input type="checkbox"/> 評価結果に基づき、学校改善に取り組んでいるか	4	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価は学則に定め、組織体制を整備し定期的に実施している。 平成 30 年度の自己評価報告書と比較し、PDCA により改善に取り組んでいる。 	特になし	特になし	
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	<input type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめているか <input type="checkbox"/> 評価結果をホームページに掲載する等広く社会に公表しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価報告書を取りまとめ、学校のホームページに公開している。 	特になし	特になし	
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか <input type="checkbox"/> 実施のための組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 設置課程・学科に関連業界等から委員を適切に選任しているか <input type="checkbox"/> 評価結果に基づく学校改善に取り組んでいるか	4	<ul style="list-style-type: none"> 学校関係者評価は規定等を整備していないが、組織体制を整備し、業界団体の役員や独立開業している卒業生を委員に選任している。 学校関係者評価委員会を実施し、その結果を学校改善に活用している。 	特になし	特になし	
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	<input type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめているか <input type="checkbox"/> 評価結果をホームページに掲載する等広く社会に公表しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> 学校関係者の議事録を取りまとめ、学校のホームページに公開している。 	特になし	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年度より、自己評価と学校関係者評価に組織的に取り組んでおり、自己評価の結果を学校関係者の目線で客観的に点検している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校関係者評価委員会を実施しているが、業界のニーズや動向に学校の方向性が合致しているかを確認しながら、主観的でなく客観的に評価を実施している。

最終更新日付	令和 3 年 8 月 23 日	記載責任者	吉田 智哉
--------	-----------------	-------	-------

9-35 教育情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	<input type="checkbox"/> 学校の概要、教育内容、教職員等教育情報を積極的に公開しているか <input type="checkbox"/> 学生、保護者、関連業界等広く社会に公開しているか	4	・教育情報は学校のホームページを活用し、業界に関心のある関係者等に対し、積極的に公開している。	特になし	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
・教育情報の内容を適切に公開している。引き続き最新情報の公開に努めていきたい。	・職業実践専門課程の基本情報をはじめ、常に最新の情報をホームページに公開している。

最終更新日付	令和3年8月23日	記載責任者	吉田 智哉
--------	-----------	-------	-------

基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・「集まる学校」づくりには、社会貢献や地域貢献は欠かせない要素であり、スポーツ大会等の関連団体主催イベントへのボランティア参加や、地域住民向けのイベントの開催のほか、研修会等での教室貸し出し等積極的に行っている。 ・医療教育の実践の一環として、「救急救命講習」を実施している。 ・附属施術所は、学生の臨床教育施設であるが、一方で地域住民に対する施術も受け付けており、地域貢献の一助となっている。これまで同様、学校の施設や教育資源を活用した社会貢献に努める所存である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ大会等の関連団体主催イベントへのボランティア参加は、積極的に参加を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NITT（日本医専トレーナーズチーム）を発足している。

最終更新日付	令和3年8月23日	記載責任者	吉田智哉
--------	-----------	-------	------

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	<input type="checkbox"/> 産・学・行政・地域等との連携に関する方針・規程等を整備しているか <input type="checkbox"/> 企業や行政と連携した教育プログラムの開発、共同研究の実績はあるか <input type="checkbox"/> 国の機関からの委託研究及び雇用促進事業について積極的に受託しているか <input type="checkbox"/> 学校施設・設備等を地域・関連業界等・卒業生等に開放しているか <input type="checkbox"/> 高等学校等が行うキャリア教育等の授業実施に教員等を派遣する等積極的に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 学校の実習施設等を活用し高等学校の職業教育等の授業実施に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 地域の受講者等を対象とした「生涯学習講座」を開講しているか <input type="checkbox"/> 環境問題等重要な社会問題の解決に貢献するための活動を行っているか <input type="checkbox"/> 教職員・学生に対し、重要な社会問題に対する問題意識の醸成のための研修、教育に取り組んでいるか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々に対しては、学校附属の敬心接骨院・敬心鍼灸院を開設、それぞれ教員や専門スタッフが施術にあっている。 ・教室や実習室を卒業生や関連業界が利用できる体制を整えており、校友会や地域鍼灸師会の勉強会、業界セミナー等を開催している。 ・9月、2月に開催される教育課程編成委員会（学外有識者、業界関係者で構成）において、教育内容の指導、助言を受け、授業及び授業外活動に反映している。 ・教員、卒業生、在校生で組織した NITT（日本医専トレーナーズチーム）によって、10を超えるプロチーム・アマチームや団体、学校に対してトレーナー活動を実施している。 ・学校内の全面禁煙化に伴い、学校周辺におけるゴミ拾い（煙草の吸殻拾い）活動を実施している。 ・新型コロナウイルス感染予防の取組について、学内だけではなく、学外でも行うよう周知している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動を通じて、企業や関連団体との連携をさらに深めていくことが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NITT による連携チームや団体、学校等の開拓に注力する。 ・さらに高等学校の授業や課外活動に積極的に協力・支援する活動を推進する。 	

<p>10-36-2 国際交流 に取組んでいるか</p>	<p>□海外の教育機関との国際交流の推進に関する方針を定めているか □海外の教育機関と教職員の人事交流・共同研究等を行っているか □海外の教育機関と留学生の受入れ、派遣、研修の実施等交流を行っているか □留学生の受入れのため、学修成果、教育目標を明確化し、体系的な教育課程の編成に取り組んでいるか □留学生の受入れを促進するために学校が行う教育課程、教育内容・方法等について国内外に積極的に情報発信を行っているか</p>	<p>4</p>	<p>・鍼灸をはじめ東洋医学の本場である中国においては、上海中医薬大学との連携を継続し、教員および学生の人事交流や技術交流も含めた相互連携に積極的に取り組んでいる。 ・9月には上海中医薬大学の教授を招き、オンラインによる特別講座を実施した。 ・また、遼寧中医薬大学との教育連携も継続し、卒業研修を実施できる環境を整備した。 ・教員を対象とした短期研修を上海中医薬大学、遼寧中医薬大学にて実施できるよう環境を整えている。</p>	<p>・既存の連携教育機関との連携をさらに深めていくと同時に、新たな連携先を模索していく。 ・留学生に対して、学校生活を円滑に送ることができるよう支援する。</p>	<p>・柔整学科の学生や卒業生を対象とした技能研修を四川省成都第一骨傷科医院で計画している。 ・東南アジアでのキャリア形成や人材養成を目的とした「東南アジアツアー」の企画を検討する。 ・留学生対象の交流会開催を検討する。</p>	
----------------------------------	--	----------	---	--	--	--

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>・学校の医療に関する知識や技術を活かし、地域社会や業界に貢献する態勢を整えつつあり、今後もさらに強化していく方向である。 ・海外の教育機関や関連団体との交流も積極的に取り組んでおり、上海中医薬大学との連携に続き、遼寧中医薬大学での卒業後研修ができる環境を整えた。また、今後、四川省成都第一骨傷科医院での卒業後研修を計画している。 ・一方、スポーツの本場アメリカ・フロリダにあるセントラルフロリダ大学で、スポーツトレーナー研修を実施し、スポーツトレーナー分野で活躍を志望する学生の技術と意欲の向上を図っている。 ・今後も引き続き、海外の教育機関や関連施設との連携強化とともに、新たな連携先を開拓していく予定である。</p>	

最終更新日付	令和3年8月23日	記載責任者	吉田 智哉
--------	-----------	-------	-------

<p>10-37 ボランティア活動</p>

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	<input type="checkbox"/> ボランティア活動等社会活動について、学校として積極的に奨励しているか <input type="checkbox"/> 活動の窓口の設置等、組織的な支援体制を整備しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を把握しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を評価しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動結果を学内で共有しているか	3	<p>・ボランティア活動については、適宜掲示等で告知を行い、参加者を募集している。特に、「東京都障害者スポーツ大会」については、学内説明会を開くなど、積極的に取組んでいる。</p> <p>・また活動内容については、学校のホームページや SNS 等で発信をしている。</p>	<p>・引き続き、スポーツ団体イベント等のボランティア参加を積極的に奨励していく。</p>	<p>・ボランティア活動に対する活動支援の方法や体制を検討していく。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>・「東京都障害者スポーツ大会」において積極的にボランティア活動を奨励するなど、適宜参加者を募集している。</p>	

最終更新日付	令和3年8月23日	記載責任者	吉田 智哉
--------	-----------	-------	-------

4 令和2年度の重点目標と達成計画

令和2年度重点目標	達成計画・取組方法
-----------	-----------

<p>(1) 入学数 240 名確保する</p> <p>(2) 就職率を 100%にする ※就職希望者に対する就職</p> <p>(3) 国家試験合格率（新卒）において、全国平均を上回る</p> <p>(4) 中途退学率を 5.0%以内とする</p>	<p>(1) 課題としていた柔整学科夜間部は目標数に達したが、柔道整復学科昼間部が 63 名の目標に対し、42 名と大幅未達となった。 鍼灸学科に関しては、昼間部が入学直後の辞退により定員に満たなかったものの鍼灸学科夜間部は定員を充足した。</p> <p>(2) 3 年生の全体進路決定率は 2 月に 90%を達成したが、国試の結果で進路変更となる学生が出ており、3 月末時点で 90%を若干下回る（89.8%）結果となった。進路未決定者に対しては卒業後の 4 月以降も継続して支援を行っていく。</p> <p>(3) 実力試験の定期的な実施、及びその結果に応じた補講体制の構築、国試直前の集中合宿等を実施し、全員合格を目指して取り組んだ。 ・柔道整復学科 昼間部：91.4%/夜間部：65.8% （全国平均：66.0%） ・鍼灸学科 昼間部：61.1%/夜間部：83.8% （全国平均：70.0%）</p> <p>(4) 中途退学率目標においては、学科別に自主目標数値を掲げて取り組んだものの、新型コロナが要因の退学が増え（継続して休学をしていた学生含む）、学校全体としては 7.0%と目標となり未達成であった。</p>
---	---

最終更新日付	令和 3 年 8 月 23 日	記載責任者	吉田 智哉
--------	-----------------	-------	-------